

支廳長	千八百圓	千六百圓	千四百圓	千二百圓	千	圓	九百圓	八百圓	七百圓
-----	------	------	------	------	---	---	-----	-----	-----

明治四十二年五月二十六日勅令第四百十五號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「警視」ヲ削ル

第三條中「四人」ヲ「五人」ニ改ム

第四條 削除

第六條中「六人」ヲ「七人」ニ改ム

第十條中「禁錮二十五日以下又ハ罰金二十五圓以内」ヲ「二月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ七十圓以下ノ罰金若ハ科料」ニ改ム

第十六條 樺太廳ニ長官官房及部ヲ置キ事務ヲ分掌セシムルコト左ノ如シ

長官官房

- 一 官吏ノ進退及身分ニ關スル事項
- 二 文書ノ往復及記録編纂ニ關スル事項
- 三 官印、廳印ノ管守ニ關スル事項
- 四 褒賞ニ關スル事項

五 外國人ニ關スル事項

第一部

- 一 教育ニ關スル事項
- 二 商工業ニ關スル事項
- 三 氣象、測候ニ關スル事項
- 四 土木ニ關スル事項
- 五 會計ニ關スル事項
- 六 鐵道、郵便、電信、電話ニ關スル事項
- 七 他ノ主宰ニ屬セサル事項

第二部

- 一 土地ノ處分及拓殖ニ關スル事項
- 二 鑛山、森林、農業、牧畜ニ關スル事項
- 三 水産、漁獵ニ關スル事項

第三部

- 一 警察ニ關スル事項
- 二 衛生ニ關スル事項

第二十條ノ二 樺太廳ニ警務長ヲ置キ第三部長タル事務官ヲ以テ之ニ充ツ

第五章 樺太の教育

第九條、第十二條、第十四條及第三十條中「内務大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正二年六月十三日勅令第百二十九號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。之に依て樺太廳長官を指揮監督する者は内閣總理大臣であつたのが再び内務大臣に改められたのである。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第九條、第十二條、第十四條及第三十條中「内閣總理大臣」ヲ「内務大臣」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日又勅令第二百十四號を以て高等官官等俸給令中に改正が行はれたが、第八條中の改正に依り樺太廳事務官の年俸三千七百圓が一級三千七百圓二級三千三百圓に改められた。

大正二年十二月二十四日勅令第三百九號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。(抄)

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條 樺太廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	勅任
内務部長	奏任
拓殖部長	奏任
警察部長	奏任
理事官	奏任
技師	專任五人
屬	專任七人
警部	專任百二人
技手	判任
通譯	判任
警部補	判任

警部補ノ定員ハ内務大臣ノ認可ヲ經テ樺太廳長官之ヲ定ム

第二條 削除

第三條 削除

第五條 削除

第六條 削除

第七條 削除

第五章 樺太の教育

第八條 削除

第十一條中「樺太守備隊司令官」ヲ「師團長」ニ改ム

第十四條第一項中「第一部長タル事務官」ヲ「官等ノ順序ニ從ヒ部長」ニ、第二項中「第一部長タル事務官」ヲ「部長」ニ、「事務官」ヲ「高等官」ニ改ム

第十六條中「第一部」ヲ「内務部」ニ、「第二部」ヲ「拓殖部」ニ、「第三部」ヲ「警察部」ニ改ム

第十七條中「事務官」ヲ以テ之ニ充ツ」ヲ削ル

第十九條 削除

第二十條 理事官ハ長官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第二十一條中「支廳長ハ」ノ下ニ「理事官又ハ屬」ヲ以テ之ニ充ツ」ヲ加フ

第二十二條 削除

第二十六條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十八條ノ二 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右の改正に依り樺太廳に内務、拓殖、警察の三部が置かるることとなり、教育行政事務は内務部に於て掌理せられたのであつた。

大正三年十一月十三日勅令第二百五十四號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「七人」ヲ「六人」ニ、「百二人」ヲ「九十二人」ニ改メ「拓殖部長 奏任」ヲ削ル

第十六條中内務部ノ項ニ左ノ如ク加ヘ第三號以下順次繰下ケ拓殖部ノ項ヲ削ル

三 鑛山、森林、農業、牧畜、水産及漁獵ニ關スル事項

四 土地ノ處分及拓殖ニ關スル事項

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年三月三十一日勅令第六十一號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。此改正に依て初めて視學が置かれたのである。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「屬」ノ次ニ「視學」ヲ加ヘ「五人」ヲ「四人」ニ、「九十二人」ヲ「百六人」ニ改ム

第二十七條ノ二 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ従事ス

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

同日又勅令第七十二號を以て左の如く樺太廳職員特別任用令中に改正が行はれ、視學の任用に關する規定が定められた。(抄)

樺太廳職員特別任用令中左ノ通改正ス

第一條ノ二 樺太廳視學ノ任用ニ關シテハ道廳府縣視學ノ任用ニ關スル規定ヲ準用ス

附則

本令ハ大正五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年七月三十一日勅令第八十四號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。之に依て内閣總理大臣が再び樺太廳長官を指揮監督することと改められたのである。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條、第九條、第十二條、第十四條及第三十條中「内務大臣」ヲ「内閣總理大臣」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正六年十月四日勅令第八十三號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第一條中「百六人」ヲ「百八人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年六月六日勅令第九十八號を以て左の如く樺太廳官制が改正せられた。

樺太廳官制

第一條 樺太ニ樺太廳ヲ置ク

第二條 樺太廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	勅任
部長	專任三人 奏任
事務官	專任三人 奏任
支廳長	專任五人 奏任
技師	專任二人 奏任
屬	
視學	
警部	專任百一人 判任
技手	
通譯	

稅務吏 專任二十五人 判任

森林主事 專任三十人 判任

警部補 專任十人 判任

第三條 長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス但シ郵便電信及電話ニ關スル事務ニ付テハ遞信大臣、貨幣銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣ノ監督ヲ承ク

第四條 長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ二月以下ノ懲役、禁錮若ハ拘留又ハ七十圓以下ノ罰金若ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得

第六條 長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第七條 長官ハ所部ノ高等官ノ懲戒ヲ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ懲戒ハ之ヲ行フ

第八條 長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 長官事故アルトキハ官等ノ順序ニ從ヒ部長其ノ職務ヲ代理ス

長官及部長共ニ事故アルトキハ内閣總理大臣ニ於テ他ノ高等官ノ一人ヲシテ長官ノ職務ヲ代理セシム
長官ハ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第十條 長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十一條 樺太廳ニ長官官房及左ノ三部ヲ置ク

內務部

拓殖部

警察部

長官官房及各部ノ事務分掌ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條 樺太廳管内須要ノ地ニ樺太廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十三條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ所部ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十四條 警察部長ハ事務ノ執行ニ關シ長官ノ命ヲ承ケ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十五條 事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十六條 支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス

第十七條 支廳長ハ法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニ付支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十八條 支廳長事故アルトキハ其ノ廳勤務ノ上席屬其ノ職務ヲ代理ス

第十九條 支廳長ハ其ノ廳ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得

第二十條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十一條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二十二條 視學ハ上官ノ指揮ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ニ從事ス

- 第二十三條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ従事シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス
- 第二十四條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス
- 第二十五條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス
- 第二十六條 稅務吏ハ上官ノ指揮ヲ承ケ稅務ニ従事ス
- 第二十七條 森林主事ハ上官ノ指揮ヲ承ケ營林及林野保護ノ事務ニ従事ス
- 第二十八條 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察及衛生ノ事務ニ従事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
- 第二十九條 長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得
- 其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム
- 第三十條 支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス
- 第三十一條 樺太廳管内須要ノ地ニ警察署ヲ置ク
- 長官ハ必要ト認ムルトキハ警察署ノ下ニ警察分署ヲ置クコトヲ得
- 警察署及警察分署ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム
- 第三十二條 警察署長又ハ警察分署長ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ但シ警察分署長ハ警部補ヲ以テ之ニ充ツルコトヲ得
- 警察署長及警察分署長ハ上官ノ指揮ヲ承ケ部内ノ警察及衛生ノ事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス
- 第三十三條 樺太廳ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス
- 巡查ニ關スル規定ハ別ニ定ムル所ニ依ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年勅令第六十二號及大正五年勅令第二百四十六號ハ之ヲ廢止ス

教育行政事務が内務部の管掌に屬するの點は従前と渝る所はない。

同日又勅令第二百一號を以て左の如く高等官官等俸給令中に改正が行はれた。(抄)

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十七條中「臺灣總督府稅關鑑定官」ノ次ニ「樺太廳事務官」ヲ加フ

第十九條中「關東都督府醫院藥局長」ノ次ニ「樺太廳支廳長」ヲ加フ

第二十八條中「樺太廳理事官又ハ」ヲ削ル

別表第一表中樺太廳ノ部ヲ削リ關東都督府ノ部ノ次ニ左ノ如ク加フ

樺太廳		長官	同上						
中學校	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
高等女學校	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

別表第五表中樺太廳理事官ノ項ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正八年二月二十三日内務部、支廳、支廳出張所、中學校、高等女學校、小學校に對する樺太廳訓令第六號を以て左の如く視學學事視察規程が定められた。

視學學事視察規程左ノ通定ム

視學學事視察規程

第一條 視學ハ別段ノ規定アルモノノ外本規程ニ依リ支廳、支廳出張所及學校ノ學事ヲ視察スヘシ

第二條 支廳ノ學事視察要項左ノ如シ

一 學事監督ノ情況

二 教育上ノ施設

三 就學出席督勵ノ情況

四 教員進退ノ情況

五 教育費ノ情況

六 教育事務ノ情況

七 通俗教育施設ノ情況

第三條 支廳出張所ノ學事視察ハ就學ノ情況ニ就キ之ヲ行フヘシ

第四條 小學校ノ學事視察要項左ノ如シ

一 御影、勅語謄本奉安ノ情況

二 設備及衛生ノ情況

- 三 訓練ニ關スル情況
- 四 教授ニ關スル情況
- 五 兒童學業成績
- 六 教育事務ノ情況
- 七 職員服務ノ情況
- 八 豫算經理ノ情況(管理者ニ就キ調査スヘシ)

第五條 中學校、高等女學校ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 御影、勅語謄本奉安ノ情況
- 二 設備ノ情況
- 三 訓練ニ關スル情況
- 四 教授ニ關スル情況
- 五 生徒學業成績
- 六 學校衛生ノ情況
- 七 寄宿舎ニ關スル情況
- 八 豫算經理ノ情況
- 九 教育事務ノ情況
- 十 職員服務ノ情況

第三編 新領土其他に於ける教育

第六條 視學ハ視察中左ノ事項ニ就キ當事者ニ指示シ又ハ注意ヲ爲スコトヲ得

一 法令ニ牴觸シタル事項

二 廳議ノ決定ニ反シタル事項

三 教授訓練及管理ニ關スル事項

四 其ノ他特ニ命ヲ受ケタル事項

第七條 視學ハ視察上必要アリト認メタルトキハ日課ヲ變更シテ教授ヲ爲サシメ又ハ生徒兒童ノ學力ヲ試驗スルコトヲ得

第八條 視學ハ視察中當事者ニ推問シ又ハ教育上ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第九條 視察中緊急處理ヲ要スト認メタル事項アルトキハ樺太廳在勤ノ視學ハ長官ニ支廳在勤ノ視學ハ支廳長ニ直ニ其ノ旨具申スヘシ

第十條 第二條及第五條ノ規定ハ支廳在勤ノ視學ニ之ヲ適用セス

第十一條 本令ハ特命ニ依リ學事ヲ視察スル官吏ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正五年^六訓令第百一號視學學事視察規程ハ之ヲ廢止ス

大正八年六月十八日勅令第百九十五號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「事務官 專任三人」ヲ「事務官 專任四人」ニ、「二人」ヲ「三人」ニ、「百人」ヲ「百十一人」ニ、「二十五人」ヲ「三十人」ニ、「三十人」ヲ「三十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正九年八月勅令第百五十七號を以て高等官官等俸給令中の改正、勅令第百五十八號を以て判任官俸給令中の改正、勅令第百五十九號を以て文武判任官等級令中の改正が行はれた。これは世界大戰後に於ける物價騰貴に伴ふ一般官吏増俸に關するものである。

右三勅令の正文は内地に於ける學校等職員關係中公立學校等職員のことを説く際に之を掲げたから、此處には之を行略し、唯舊令と新令とに依る樺太廳職員の官等俸給の比較のみを左に掲げる。

官名	官等俸給		官等俸	官等俸
	従前	改正		
樺太廳長官	至自一等	至自二等	至自三級 三、七〇〇圓	至自三級 六、二〇〇圓
樺太廳各部長	至自三七等	至自三七等	至自十級 三、〇〇〇圓	至自十二級 四、五〇〇圓

部 専任十一人」ニ、「技手 専任四十一人」ヲ「技手 専任三十八人」ニ、「森林主事 専任四十五人」ヲ「森林主事 専任四十九人」ニ改メ「通譯 専任一人 判任」ヲ削ル

第十一條中「三部」ヲ「二部」ニ改メ「拓殖部」ヲ削ル

第十四條中「命ヲ承ケ」ノ下ニ「警視」ヲ加フ

第十九條ノ二 警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察及衛生ニ關スル事務ヲ掌リ部下ノ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第二十五條 削除

第二十九條 長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第三十條 支廳出張所長ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第三十二條中「警察署長又ハ」ヲ「警察署長ハ警視又ハ警部ヲ以テ之ニ充テ」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和二年六月二十九日勅令第百九十九號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。(抄)

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「部長 二人」ヲ「部長 三人」ニ、「事務官 専任四人」ヲ「事務官 専任六人」ニ、「技師 専任六人」ヲ「技師 専任五人」ニ、「屬 専任百一十人」ヲ「屬 専任百二十人」(中略)ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年七月二十七日勅令第百七十一號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「森林主事 専任七十七人」ヲ「森林主事 専任二百六十三人」ニ改ム

附則

本令ハ昭和三年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年六月十日勅令第百六十一號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。これは新に拓務大臣が置かれて樺太廳長官を指揮監督することとなつたが爲である。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第三條、第六條、第七條、第九條及第十二條中「内閣總理大臣」ヲ「拓務大臣」ニ改ム

第十一條第二項中「内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ」ヲ削ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年一月二十一日勅令第七號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。之に依て視學の定員が増加せられ又新に視學官が置かるることとなつたのである。(抄)

樺太廳官制中左ノ通改正ス

- 第二條第一項中「事務官 專任六人 奏任」ノ次ニ「視學官 專任一人 奏任」ヲ加ヘ(中略)「技師 專任五人」ヲ「技師 專任四人」ニ、「屬 專任百二十人」ヲ「屬 專任百二十五人」ニ、「視學 專任四人」ヲ「視學 專任九人」ニ、(中略)「技手 專任六十二人 判任」ヲ「技手 專任四十人 判任」ニ、「通譯 專任一人 判任」ニ、(中略)改メ(後略)
- 第十五條ノ二 視學官ハ上官ノ命ヲ承ケ學事ニ關スル視察及事務ヲ掌ル
- 第二十五條 通譯ハ上官ノ指揮ヲ承ケ通譯ニ従事ス
- 第二十七條 削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日勅令第十二號を以て左の如く高等官官等俸給令中に改正が行はれた。

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十四條中「關東廳事務官」ノ次ニ「關東廳視學官」ヲ加フ

第十五條中「臺灣總督府翻譯官」ノ次ニ「臺灣總督府稅務官」ヲ、「樺太廳事務官」ノ次ニ「樺太廳視學官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日又勅令第十六號を以て左の如く樺太廳視學官特別任用令が定められた。

樺太廳視學官特別任用令

第一條 樺太廳視學官ハ左ノ資格ノ一ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

一 文部省督學官、朝鮮總督府視學官、臺灣總督府視學官又ハ關東廳視學官ノ職ニ在リタル者

二 二年以上奉任官又ハ奉任官待遇以上ノ學校長、教官、教員又ハ教育事務ニ従事スル職員ノ職ニ在リタル者

三 五年以上判任官又ハ判任官待遇ノ學校長、教官、教員又ハ教育事務ニ従事スル職員ノ職ニ在リテ月額八十五

圓以上ノ俸給ヲ受ケタル者

第二條 前條第二號及第三號ニ規定シタル各職ノ在職年數ハ之ヲ通算ス但シ所要ノ在職年數ヲ異ニスル各職ノ在職年數ヲ通算スル場合ニ於テハ甲職ノ在職年數ノ其ノ職ノ所要ノ在職年數ニ對スル比率ヲ乙職ノ所要ノ在職年數ニ乘ジテ得タル年數ヲ甲職ノ在職年數トシ之ヲ乙職ノ在職年數ニ通算ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年十月二十三日勅令第二百一號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。此改正に依り社會教育官が設られた。

樺太廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「視學官 專任一人 奏任」ノ次ニ「社會教育官 專任一人 奏任」ヲ加ヘ「技師 專任四人」ヲ「技師 專任六人」ニ、「屬 專任百二十五人」ヲ「屬 專任百三十人」ニ、「警部 專任十四人」ヲ「警部 專任十五人」ニ、「技手 專任四十人」ヲ「技手 專任四十四人」ニ、「警部補 專任十九人」ヲ「警部補 專任二十四人」ニ改ム

第十五條ノ三 社會教育官ハ上官ノ命ヲ承ケ社會教育ニ關スル指導監督及事務ヲ掌ル

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日勅令第二百二號を以て左の如く高等官官等俸給令中に改正が行はれた。

高等官官等俸給令中左ノ通改正ス

第十五條中「樺太廳視學官」ノ次ニ「樺太廳社會教育官」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

同日又勅令第二百三號を以て左の如く樺太廳社會教育官特別任用令が定められた。

樺太廳社會教育官特別任用令

樺太廳社會教育官ハ社會教育ノ指導監督ニ關スル事務ニ必要ナル學識、技能及經驗ヲ有スル者ノ中ヨリ高等試験委員ノ詮衡ヲ經テ特ニ之ヲ任用スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年五月勅令第九十九號を以て高等官官等俸給令中の改正、勅令第百號を以て判任官俸給令中の改正が行はれた。

これは第二次若槻内閣の時に行はれた一般官吏減俸に關するものである。

右二勅令の正文は内地に於ける學校等職員關係中官立學校等職員のことを説く際に之を掲げたから此處には之を省略し、唯舊令と新令とに依る樺太廳職員の官等俸給の比較のみを左に掲げる。

官名	官等俸給		俸給	
	從前	改正	從前	改正
樺太廳長官	至自一二等	至自一二等	至自三級	至自三級
樺太廳各部長	至自三七等	至自三七等	至自十二級	至自十二級
樺太廳事務官	至自四八等	至自四八等	至自十一級	至自十一級
樺太廳視學官	至自四八等	至自四八等	至自十一級	至自十一級
			一、一〇〇〇圓	一、一〇〇〇圓
			三、八〇〇〇圓	三、四〇〇〇圓
			五、二〇〇〇圓	四、六五〇〇圓
			六、〇〇〇〇圓	五、三五〇〇圓
			四、一、二〇〇〇圓	四、〇五〇〇圓
			三、八〇〇〇圓	三、四〇〇〇圓
			一、一〇〇〇圓	一、〇五〇〇圓
			三、八〇〇〇圓	三、四〇〇〇圓
			五、二〇〇〇圓	四、六五〇〇圓
			六、〇〇〇〇圓	五、三五〇〇圓
			四、一、二〇〇〇圓	四、〇五〇〇圓
			三、八〇〇〇圓	三、四〇〇〇圓
			一、一〇〇〇圓	一、〇五〇〇圓

樺太廳支廳長	至自	四八等	至自	四八等	至自	十一級	三、八〇〇圓	至自	十一級	三、四〇〇圓
--------	----	-----	----	-----	----	-----	--------	----	-----	--------

昭和六年十二月十七日内務部・支廳・支廳出張所、町村役場、幼稚園、學校、青年訓練所に對する樺太廳訓令第三百號を以て左の如く視學官及視學學事視察規程が定められた。

視學官及視學學事視察規程左ノ通定ム

視學官及視學學事視察規程

第一條 視學官及視學ハ別段ノ規程アルモノノ外本令ニ依リ支廳、支廳出張所、町村役場、幼稚園、學校及青年訓練所ノ學事ヲ視察スヘシ

第二條 支廳ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 學事監督ノ情況
- 二 視學出席督勵ノ情況
- 三 教職員ノ身分進退取扱ノ情況
- 四 教育費ノ情況
- 五 教育事務ノ情況
- 六 社會教育施設ノ情況
- 七 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況

前項ノ規定ハ支廳出張所ノ學事視察ニ付之ヲ準用ス

第三條 町村役場ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 就學出席督勵ノ情況
- 二 教育費ノ情況
- 三 教育事務ノ情況
- 四 學事關係者勤務ノ情況
- 五 社會教育施設ノ情況
- 六 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況

第四條 幼稚園ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 設備及衛生ノ情況
- 二 保育ニ關スル情況
- 三 保育事務ノ情況
- 四 職員服務ノ情況
- 五 其ノ他保育上ノ施設ニ關スル情況

第五條 小學校ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 御影、勅語謄本、戊申詔書寫本及精神作興詔書寫本等奉安ノ情況
- 二 設備及衛生ノ情況

- 三 訓練ニ關スル情況
 - 四 教授ニ關スル情況
 - 五 兒童學業成績
 - 六 教育事務ノ情況
 - 七 職員服務ノ情況
 - 八 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況
- 第六條 中學校及高等女學校ノ學事視察要項左ノ如シ
- 一 御影、勅語謄本、戊申詔書寫本及精神作興詔書寫本等奉安ノ情況
 - 二 設備及衛生ノ情況
 - 三 訓練ニ關スル情況
 - 四 教授ニ關スル情況
 - 五 生徒學業成績
 - 六 教育事務ノ情況
 - 七 職員服務ノ情況
 - 八 豫算經理ノ情況
 - 九 寄宿舎ニ關スル情況
 - 十 其ノ他教育上ノ施設ニ關スル情況

前項ノ規定ハ中學校高等女學校若ハ實業學校ニ類スル各種學校及實業補習學校ノ學事視察ニ付之ヲ準用ス

第七條 青年訓練所ノ學事視察要項左ノ如シ

- 一 設備及衛生ノ情況
 - 二 訓練ニ關スル情況
 - 三 生徒訓練成績
 - 四 訓練事務ノ情況
 - 五 職員服務ノ情況
 - 六 其ノ他訓練上ノ施設ニ關スル情況
- 第八條 視學官及視學ハ視察中左ノ事項ニ就キ當事者ニ指示シ又ハ注意ヲ爲スコトヲ得
- 一 法令ニ牴觸シタル事項
 - 二 應議ノ決定ニ反シタル事項
 - 三 教授訓練及管理ニ關スル事項
 - 四 其ノ他特ニ指命ヲ受ケタル事項

第九條 視學官及視學ハ視察中必要アリト認メタルトキハ日課ヲ變更シテ教授ヲ爲サシメ又ハ生徒兒童ノ學力ヲ試驗スルコトヲ得

第十條 視學官及視學ハ視察中當事者ニ推問シ又ハ教育上ノ意見ヲ徵スルコトヲ得

第十一條 視察中緊急處理ヲ要スト認メタル事項アルトキハ視學官及樺太廳在勤ノ視學ハ長官ニ、支廳在勤ノ視學

ハ支廳長ニ直ニ其ノ旨具申スヘシ

第十二條 第二條第一項ノ規定ハ支廳在勤ノ視學ニ、第六條第一項ノ規定ハ視學ニ之ヲ適用セス
第十三條 本令ハ特命ニ依リ學事ヲ視察スル官吏ニ之ヲ準用ス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス
視學學事視察規程ハ之ヲ廢止ス

昭和七年五月二十四日內務部、支廳、支廳出張所、町村役場、幼稚園、學校、青年訓練所に對する樺太廳訓令第一百零八號を以て左の如く視學官及視學學事視察規程中に改正が行はれた。

視學官及視學學事視察規程中左ノ通改正ス

第十一條中「支廳在勤ノ視學ハ支廳長ニ」ノ下ニ、「支廳出張所在勤ノ視學ハ支廳出張所長ニ」ヲ加フ

第十二條 第二條ノ規定ハ支廳及支廳出張所在勤ノ視學ニ、第六條第一項ノ規定ハ視學ニ之ヲ適用セス

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年七月二十七日勅令第八十七號を以て左の如く樺太廳官制中に改正が行はれた。
樺太廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「技師 專任六人」ヲ「技師 專任五人」ニ、「屬 專任百三十人」ヲ「屬 專任百十九人」ニ、「視學專任九人」ヲ「視學 專任八人」ニ、「技手 專任四十四人」ヲ「技手 專任四十人」ニ、「警部補 專任二十四人」ヲ「警部補 專任二十三人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二項 地方教育行政機關

地方教育行政機關としては支廳長がある。支廳長は樺太廳官制の示すが如く、樺太廳長官の指揮監督を受けて管内の行政事務を施行する官廳であり、教育行政事務も亦其管掌に屬する。支廳長と初等普通教育機關たる小學校との關係に就ては前に初等普通教育の款に於て述べた通である。

尙ほ教育行政事務に關與する地方自治體に就て述べると、

地方の部落は法令を以て正式に自治體と認められた以前より事實上自治の作用を爲したものである。即ち大正九年八月勅令第三百四十三號を以てする明治四十一年勅令第四十四號「樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件」中の改正に依り、樺太廳立小學校の外に樺太公立小學校が認められた際に、所謂樺太公立小學校を設立維持する主體は部落であり、部落は既に自治體の働きを爲して居たのであつた。其後大正十年四月法律第四十七號「樺太ノ地方制度ニ關スル件」を以て樺太に地方の事務を處理せしむる爲町又は村を置くこととなり、且同法は樺太廳長官の指定する區域に之を適用すること

が定められ、而して同法は大正十一年四月一日より施行せられたので、之に基き大正十一年一月勅令第八號を以て樺太町村制が制定せられ、町村と稱する自治體が正式に法の上に認めらるることとなつた。樺太町村制の第二條には、町村は法令の範圍内に於て教育及其他に關する事項を處理することと規定して居るので、之と相應じ大正十一年三月勅令第百六十三號を以てする明治四十一年勅令第四十五號「樺太ニ於ケル小學校ニ關スル件」中の改正に依り、町村が從來部落の設立維持したる公立小學校の設立主體たるべきことを認め且從來の樺太廳立小學校をも町村の經營に移すこととした（職員の俸給は國庫支辨とし）。これは前に初等普通教育の款に於て述べた通である。尙ほ大正十三年四月勅令第六十六號樺太公立高等女學校官制を以て、町村が高等女學校をも設立維持し得ることが認められた。これも亦男子高等普通教育の款に於て既に述べた所である。

其後昭和四年三月法律第二號を以て樺太町村制が定められ、同年七月一日より施行せられた。此新町村制は官治的色彩の濃厚であつた舊町村制を改めて自治的のものとしたのであつた。

新町村制の第二條には「町村ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ其ノ公共事務及法律勅令ニ依リ町村ニ屬スル事務ヲ處理ス」とあり、教育行政事務は町村の地方公共事務に非ざるは勿論であるから、町村をして教育行政事務を施行せしむるには必ず法律勅令の規定に待たねばならぬこととなるのである。而して從來町村と教育行政事務との關係は勅令を以て定められて居たので、此點に於て何等變更の必要はなかつたのであつた。

第六章 南洋群島の教育

第一款 概 説

マリヤナ、マーシャル、カロリンの南洋三群島は元獨逸國の保護領であつたが、大正三年歐洲の大戦勃發し、日獨の國交破るるや、我海軍の南遣枝隊は直に南洋を衝き、赤道以北に散在する獨領南洋群島を占領し、同時に特別陸戰隊を駐屯せしめて軍政を布き、一時の治安に任ずることとした。これが大正三年十月のことである。次で同年十二月には臨時南洋群島防備隊條例が定められ、臨時南洋群島防備隊司令官をして軍政を統べしめ、司令部に民政顧問を配置し、全群島を五民政區に分ち、各區に守備隊を配置し、守備隊長をして軍政廳長を兼ね臨時南洋群島防備隊司令官の下に民政事務を兼掌せしむることとした。其後大正七年七月一日民政職員設置に關する勅令が公布せらるると共に、臨時南洋群島防備隊條例の改正を見、防備隊に民政部が設けられ、一般施政の事務は民政部の統轄と爲し、海軍事務官長を以て民政部長とし、從來の防備隊附民政顧問は廢止せられた。又一方從來の軍政廳を民政署と改稱し、海軍事務官を以て民政署長とし、一般行政事務を執行するの制度に改められた。而して此制度が實際に行はれ海軍事務官たる民政署長の任命を見、名實共に民政の基礎が確立したのは大正八年五月のことであつた。かくする中大正九年一月對獨平和條約が成立し、越えて大正十年四月正式委任條項の決定せらるるに及び、國際聯盟規約第二十二條の規定及び式委任統治條項に基き、主たる同盟及聯合國の委任に依り南洋群島は我國の委任統治地域となり、我國は受任國として之が統治を行ふこと

となつた。

是に於て南洋群島に於ける施政制度の上に根本的改革の必要を見るに至り、大正十一年三月三十一日勅令第百七號を以て左の如く南洋廳官制が定められ、南洋廳が西カロリン群島パラオ諸島コロール島に置かれ、同時に從來の臨時南洋群島防備隊條例は廢止せられた。

南洋廳官制

第一條 南洋群島ニ南洋廳ヲ置ク

第二條 南洋廳ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	勅任
部長	三人
事務官	專任八人
警視	專任一人
技師	專任四人
屬	專任五十六人
警部	專任八人
技手	專任十六人
警部補	專任十人
判任	判任
判任	判任
判任	判任
判任	判任
判任	判任
判任	判任
判任	判任
判任	判任

第三條 長官ハ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ部内ノ政務ヲ管理ス但シ郵便及電信ニ關スル事務ニ付テハ遞信大

臣、貨幣銀行及關稅ニ關スル事務ニ付テハ大藏大臣、度量衡及計量ニ關スル事務ニ付テハ農商務大臣ノ監督ヲ承ク

第四條 長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發シ之ニ一年以下ノ懲役若ハ禁錮、拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

第五條 長官ハ安寧秩序ヲ保持スル爲臨時緊急ヲ要スル場合ニ於テハ前條ノ制限ヲ超ユル罰則ヲ附シタル命令ヲ發スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リテ發シタル命令ハ公布後直ニ内閣總理大臣ヲ經テ勅裁ヲ請フヘシ勅裁ヲ得サルトキハ長官ハ直ニ其ノ命令ノ將來ニ向テ效力ナキコトヲ公布スヘシ

第六條 長官ハ其ノ管轄區域ノ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ鎮守府司令長官又ハ附近ノ海軍主席指揮官ニ兵力ノ使用ヲ請求スルコトヲ得

第七條 長官ハ所部ノ職員ヲ指揮監督シ高等官ノ功過ハ内閣總理大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第八條 長官ハ所轄官廳ノ命令又ハ處分ニシテ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得

第九條 長官ハ其ノ職權ニ屬スル事務ノ一部ヲ所轄官廳ニ委任スルコトヲ得

第十條 南洋廳ニ長官官房及左ノ三部ヲ置ク

内務部

財務部

第六章 南洋群島の教育

拓殖部

長官官房及各部ノ事務分掌ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十一條 南洋廳管内須要ノ地ニ南洋廳支廳ヲ置ク其ノ名稱、位置及管轄區域ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十二條 長官ハ支廳ノ事務ヲ分掌セシムル爲支廳出張所ヲ置クコトヲ得其ノ名稱、位置及管轄區域ハ長官之ヲ定ム

第十三條 部長ハ長官ノ命ヲ承ケ部務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十四條 事務官ハ支廳長タル者ヲ除クノ外上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十五條 支廳長ハ事務官ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス

第十六條 支廳長ハ部内ノ行政事務ニ付其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ支廳令ヲ發スルコトヲ得

第十七條 支廳出張所長ハ屬又ハ警部ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第十八條 警視ハ上官ノ命ヲ承ケ警察、衛生及監獄ノ事務ヲ掌リ其ノ執行ニ關シ警部、警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第十九條 技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

第二十條 屬ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ従事ス

第二十一條 警部ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生及監獄ノ事務ニ従事シ部下ノ警部補及巡查ヲ指揮監督ス

第二十二條 技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ従事ス

第二十三條 警部補ハ上官ノ指揮ヲ承ケ警察、衛生及監獄ノ事務ニ従事シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス

第二十四條 氣象ニ關スル事務ヲ掌ラシムル爲南洋廳ニ觀測所ヲ置ク其ノ名稱及位置ハ長官之ヲ定ム

觀測所長ハ技手ヲ以テ之ニ充ツ長官ノ指揮監督ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第二十五條 南洋廳ニ巡查ヲ置ク判任官ノ待遇トス

巡查ノ定員ハ長官之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正七年勅令第二百六十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ臨時南洋群島防備隊ニ在勤スル者別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ海軍書記生ハ南洋廳屬ニ、海軍警部ハ南洋廳警部ニ、海軍技官補ハ南洋廳技手ニ、海軍警部補ハ南洋廳警部補ニ、海軍巡查ハ南洋廳巡查ニ同俸給ヲ以テ任セラレタルモノトス

右官制の示すが如く南洋廳長官は内閣總理大臣の指揮監督を受けて、部内の行政事務を統轄するものであり、教育行政事務に關しても、内地の中央教育行政官廳たる文部大臣より獨立して之を統理するのである。

南洋廳には内務、財務、拓殖の三部が置かれ、教育行政事務は内務部に於て掌理せらるるのである。南洋群島に於ける教育は、島人に對するものと此地に渡來せる内地人に對するものとに分れるのであるが、兩者共に今日に至るまで猶ほ初等普通教育若は簡易實業教育の範圍を出でぬのである。而して内地とは自ら事情を異にするので、義務教育の制度の如きは島人に關して之を施行せざるは勿論、内地人に關しても亦之を行はぬのである。

尚ほ初等普通教育機關たる公學校及小學校の教員は内地よりの供給に俟つて居るので、特に師範教育の如き施設は今

日まで未だ行はれて居ない。

同日又法律第二十五號を以て左の如く南洋廳特別會計法が定められた。

南洋廳特別會計法

- 第一條 南洋廳ノ會計ハ特別トシ其ノ歳入及一般會計ノ補充金ヲ以テ其ノ歳出ニ充ツ
 - 第二條 南洋廳特別會計ノ收入支出ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
 - 第三條 政府ハ毎年南洋廳特別會計ノ歳入歳出豫算ヲ調製シ歳入歳出ノ總豫算ト俱ニ帝國議會ニ提出スヘシ
- 附則
- 本法ハ大正十一年度ヨリ之ヲ施行ス

第二款 初等普通教育

第一項 島人に對する初等普通教育

獨逸領時代獨逸國は頻に島人の教化に努め新舊基督教宣教師を派遣し、其布教に従事せしむる外或は補助金を給與し、或は宗教學校を設置せしめて島人兒童の教育に従はしめ、且盛に獨逸語の普及を圖り、其他サイパン島に小學校を設置し、各群島の優秀なる者を選抜して教養する外全島中より適材を選んで遠く青島に留學せしめた如き、島人の教養に専心したる跡歴然たるものがある。

歐洲大戰中即ち我軍政時代に大正四年十二月二十七日南洋群島民政令第十號を以て左の如く南洋群島小學校規則が定められた。

南洋群島小學校規則左ノ通定ム

南洋群島小學校規則

第一章 總則

- 第一條 小學校ハ本群島民ノ兒童ニ德育ヲ施シ國語ヲ教ヘ身體ノ發達ニ留意シテ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授ケ修身奉公ノ道ヲ教フルヲ以テ本旨トス
- 第二條 守備隊所轄民政區ニ一個以上ノ小學校ヲ置ク
特ニ必要アリト認メタルトキハ分教場ヲ設クルコトアルヘシ
- 第三條 入學年齡ニ達シタル兒童ハ其ノ在住セル民政區内ノ小學校ニ收容ス
- 第四條 小學校ノ修業年限ハ四箇年トス
分教場ニハ第一學年及第二學年ヲ置ク
- 第五條 小學校ノ教科目ハ修身、國語、日本歴史、地理、算術、理科、手工、圖畫、唱歌、體操トシ男子ノ爲ニハ農業ヲ加ヘ女子ノ爲ニハ裁縫及家事ヲ加フ
特別ノ事情アルトキハ學校長ハ男子ニ就キ農業女子ニ就キ手工及圖畫ヲ闕キ分教場ニ於テハ手工、圖畫、唱歌、體操ヲ闕クコトヲ得

第六條 前條第二項ニ依リ教科目ヲ闕キタルトキハ學校長ハ守備隊長ヲ經テ此ノ旨ヲ司令官ニ報告スヘシ闕キタル

教科目ヲ加ヘタルトキ亦同シ

第七條 每週教授時數及學級ノ編制ハ學校長之ヲ定メ守備隊長ヲ經テ司令官ニ報告スヘシ每週教授時數及學級ノ編制ノ變更ヲナシタルトキ亦同シ

第八條 土地ノ情況ニヨリ小學校ニ補習科ヲ置ク

補習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第九條 學校長ハ兒童身體ノ情況ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目アリト認メタルトキハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得

第十條 小學校ノ教科用圖書ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十一條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第十二條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用フルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第十三條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ卒業證書ハ第一號表ノ様式ニ依ルヘシ

第十四條 學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ與フルコトヲ得修業證書ハ第二號表ノ様式ニ依ルヘシ

第二章 學年、休業日及式日

第十五條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日マテ

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日マテ

第三學期 一月一日ヨリ三月三十一日マテ

第十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十七條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一、祭日、祝日

元始祭、新年宴會、紀元節、神武天皇祭、明治天皇祭、天長節、天長節祝日、神嘗祭、新嘗祭、春季皇靈祭、秋季皇靈祭、開校記念日

二、日曜日

三、第一學期末休業日 八月二十日ヨリ八月三十一日マテ

四、第二學期末休業日 十二月二十六日ヨリ翌年一月七日マテ

五、第三學期末休業日 三月十日ヨリ三月三十一日マテ

前項ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學校長ニ於テ其ノ事由ヲ具シ守備隊長ノ認可ヲ受クヘシ特別ノ事情ニ依リ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長ニ於テ休業ヲ行ヒ速ニ守備隊長ニ此ノ旨届出ツヘシ

第十八條 紀元節、天長節祝日、一月一日ニ於テハ職員兒童學校ニ參集シテ左ノ順序ニ依リ式ヲ行フ

一、遙拜

- 二、職員及兒童「君が代」ヲ合唱ス
 - 三、學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス
 - 四、學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノアル所ヲ誨告ス
 - 五、職員及兒童ハ其ノ祭日祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス
- 前項以外ノ祭日祝日ニ於テハ前項第二號乃至第四號ノ式ヲ闕ク但シ前項第一號ノ式後學校長ハ其ノ祭日祝日ニ關スル訓話ヲ行フヘシ

第三章 入學、在學、退學、卒業

- 第十九條 小學校ニ入學スヘキ兒童ノ年齢ハ滿八歳以上滿十二歳以下トシ學年ノ始ニ於テ入學セシムヘシ
- 第二十條 入學セシムヘキ兒童ハ守備隊長之ヲ選定スヘシ
- 第二十一條 守備隊長ハ三月十日マテニ入學セシムヘキ兒童及其ノ保護者ノ住所氏名兒童ノ年齢及保護者ト兒童トノ關係ヲ學校長ニ通知スヘシ
- 第二十二條 學校長ハ第三號表ノ様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ
- 學籍簿ニ記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク之ヲ加除訂正スヘシ
- 第二十三條 學校長ハ第四號表ノ様式ニ依リ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席及缺席ヲ明ニスヘシ
- 第二十四條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルコトヲ停止スルコトヲ得
- 第二十五條 學校長ハ第二十條ノ通知ヲ受ケタル兒童中入學期日後七日以内ニ入學セサル者アルトキハ其ノ氏名ヲ

守備隊長ニ報告スヘシ

- 第二十六條 在學兒童ニシテ正當ノ事由ナク引續キ七日間缺席シタルトキハ學校長ハ遲滞ナク其ノ保護者ニ對シ兒童ヲシテ出席セシムヘキ旨ヲ通知シ仍引續キ七日以上出席セシメサルトキハ其ノ旨守備隊長ニ報告スヘシ
- 第二十七條 守備隊長ニ於テ前二條ノ規定ニ依リ報告ヲ受ケタルトキハ關係酋長又ハ之ニ準スル者ニ對シ其ノ兒童ノ入學又ハ出席スヘキ旨嚴達スヘシ
- 第二十八條 兒童ヲ退學セシメントスルトキハ保護者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ申出テ其ノ許可ヲ受クヘシ
- 第二十九條 學校長ハ毎學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ遲滞ナク守備隊長ニ報告スヘシ
- 第三十條 學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得

第四章 管理

第三十一條 小學校ハ司令官ノ命ヲ承ケ守備隊長之ヲ管理ス

附則

本令ハ大正五年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號乃至第四號表) 略

右規則に定むるが如く各民政區に一箇以上の小學校を置くこととし、修業年限を四箇年とし、國語其他必要なる科目を授け、滿八歳以上滿十二歳以下の男女兒童を入學せしめたのであつた。而して小學校は守備隊長が之を管理することとした。

右小學校規則制定と同時に小學校がトラツク島夏島、サイパン島ガラパン、ヤップ島コロニー、パラオ島コロール、

ポナベ島コロニー及ヤルト島ジャボールの六箇所に設置せられた。又大正五年六月にはバラオ島マルキヨクに、大正六年三月にはクサイ島レロ村に、大正七年三月にはポナベ島キチーに小學校が増設せられた。

大正七年六月十五日南洋群島民政令第一號を以て左の如く從來の規程に代るべき南洋群島島民學校規則が定められた。

南洋群島島民學校規則左ノ通定ム

南洋群島島民學校規則

第一章 總則

第一條 島民學校ハ島民ノ兒童ニ皇恩ヲ感受セシメ國語ヲ教ヘ德育ヲ施シ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 島民學校ハ司令官ニ於テ必要ト認メタル地ニ之ヲ設置ス

但シ必要ニ依リ分校ヲ設置スルコトアルヘシ

第三條 島民學校ノ修業年限ハ三箇年トシ分校ニハ第二學年迄ヲ置ク

但シ土地ノ情況ニ依リ補習科ヲ置クコトヲ得其ノ修業年限ハ二箇年以内トス

第四條 島民學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、唱歌、體操、圖畫トシ男兒ノ爲ニハ農業、手エヲ加ヘ女兒ノ爲ニハ裁縫及家事ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ修身、國語、算術ノ外適宜他ノ教科目ヲ缺クコトヲ得

補習科ニ在リテハ學校長ハ土地ノ情況ニ適セル教程ヲ定メ島民學校ノ教科ヲ補習シツツ稍高程度ノ課程ヲ授ケ農工商等ニ關スル卑近ナル知識及實習ヲ課シ尙日本歴史、日本地理及理科ノ大要ヲ加フルコトヲ得

第五條 學校長ハ前條ニ依リ教科目ヲ加除セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ第三條ニ依リ補習科ヲ置カムトスルトキハ其ノ修業年限及教程ヲ定メ民政署長ヲ經テ司令官ノ認可ヲ受クヘシ

第二章 教則及編制

第六條 島民學校ニ於テハ第一條ノ趣旨ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

何レノ教科目ニ於テモ常ニ皇恩ヲ感受セシムルコトヲ主眼トシ徳性ノ涵養ト國語ノ習熟トニ留意シテ教授セムコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ民度及土地ノ情況ニ顧ミ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシムムコトヲ務ムヘシ

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シ各適當ノ教育ヲ施サムコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益セムコトヲ要ス

第七條 修身ハ常ニ團體ノ尊嚴ナル所以ヲ説キ

天皇ノ至仁至愛、國民ノ武勇仁義世界ニ冠タルコトニ及ホシ兒童ニ皇恩ヲ感受セシメ皇化ニ浴スルハ即チ島民ノ幸福ナルコトヲ了知セシムルヲ根元トシ日常ノ行儀作法ヨリ導キ人道ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

島民ノ風俗習慣現在ノ狀態ニ考察シ向上ニ必要ナル日常卑近ノ實踐事項ヲ授ケテ矯正指導シ漸ク進ミテハ島民トシテノ責務ニ及ホシ政令ニ遵ヒ公益ヲ盡シ報本反始ノ風ヲ養ヒ又女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハムコトヲ務

ムヘシ

第八條 國語ハ普通ノ言語日常須知ノ文字及平易ナル口語文ヲ教ヘ其ノ應用ヲ自在ナラシメ以テ正確ニ思想ヲ發表スルノ能ヲ養ヒ特ニ言語ノ練熟ヲ主トシ日常邦語ヲ使用スルニ支障ナキ程度ニ至ラシムルヲ以テ要旨トス
國語ハ初メハ發音ヲ正シクシ片假名ノ讀方、書方、綴方ヲ課シ簡易ナル言語ヲ授ケ話方ニ重キヲ置キ進ミテハ日常須知ノ文字及平易ナル口語文ニ及ホシ特ニ普通ノ言語ニ熟達スル様練習セシムヘシ
讀方ハ發音語調ヲ正確流暢ナラシメ語句ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシメ言語ト文字トヲ一致セシムルコトニ務ムヘシ

綴方ハ讀方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及兒童ノ見聞シ且處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ其ノ文ハ平易ナル口語文トス

書方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書トシ假名ハ片假名トス

第九條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ思考ヲ正確ナラシムルヲ以テ要旨トス

算術ハ初メハ二十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數方書方及加減乗除ヲ併セ課シ進ミテハ百以下ノ數ニ及ホシ日常必要ナル加減乗除ヲ授クヘシ

算術ハ初メハ暗算ヲ用ヒ進ミテハ筆算ヲ併セ課シ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ナルモノヲ選フヘシ

算術ヲ授クルニハ理會ヲ精確ニシ暗算運算ニ習熟シテ應用自在ナラシメ又計算ヲ正確ニ説明セシムコトヲ要ス

第十條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養並國語ノ習熟ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ平易ナル單音唱歌ヲ授ケ歌詞ハ口語文ノモノヲ多カラシメ樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

歌詞ハ成ルヘク其ノ意味ヲ了解セシムヘシ

第十一條 體操ハ健康ヲ増進シ精神ヲ快活ニシ特ニ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ主トシテ遊戯ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男女ノ別ニ依リ其ノ種類ヲ斟酌スヘシ

體操ノ教授ニ依リ習成シタル姿勢及規律ハ常ニ之ヲ保タシムルコトヲ務ムヘシ

第十二條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ單形ヨリ始メ簡單ナル形體ニ及ホシ實物又ハ手本ニ就キ若クハ自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ

圖畫ノ教授ニ於テハ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハムコトニ注意スヘシ

第十三條 農業ハ其ノ土地ニ適應セル農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土地ノ情況ニ依リ農事又ハ水産ヲ授ケ若クハ農事水産ヲ併セ授クヘシ農事ハ栽培、養畜、植樹等ニ就キ水産ハ漁撈、養殖等ニ就キ其ノ土地ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ實習ニ重キヲ置キ又理科的知識ヲ授シルコトニ留意スヘシ

第十四條 手工ハ簡單ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工藝ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
手工ハ紙、絲、植物纖維、竹、木、粘土、金屬等ノ材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ其ノ材料ノ品類性質等

ヲ教示シ尙利用厚生ノ途ヲ知ラシムヘシ

第十五條 裁縫及家事ハ女子ニ須要ナル普通ノ技藝及近易ナル家事上ノ知識ヲ得シメ整頓利用等ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

裁縫ハ運針法ヨリ始メ漸ク通常ノ衣類ノ縫方ヲ授ケ裁方、繕方、洗方、保存方及刺繡等ヲ教ヘ土地ノ情況ニ依リ「ミシン」機ノ使用法ヲ授クルコトヲ得

家事、衣食住等ニ就キ簡易適切ナル事項ヲ授ケ兼テ實習ヲ課スヘシ

裁縫及家事ヲ授クルニハ日常生活狀態ノ改善ニ留意シ其ノ材料ハ平常所要ノモノニ採リ用具ノ使用法、材料ノ品種、性質、價格並衣類、家具、食料品ノ保存方等ヲ教示スヘシ

第十六條 每週教授時數ハ別表ヲ標準トシ土地ノ狀況ニ依リ學校長之ヲ定メ民政署長ヲ經テ司令官ノ認可ヲ受クヘシ變更シタルトキ亦同シ

第十七條 學校長ハ其ノ學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第十八條 島民學校ノ教科書ハ司令部ニ於テ編纂又ハ檢定セルモノタルヘシ

第十九條 學校長ハ各學年ノ課程ノ修了又ハ全教程ノ卒業ヲ認ムルニハ兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ニ依ルヘシ

第二十條 學校長ハ第四號様式ニ依リ成績考查簿ヲ作成シ前條ニ依リ考查セル成績ヲ記入スヘシ

第二十一條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ全課ノ教程ヲ終了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ卒業證書ハ第一號様式ニ依ルヘシ

第二十二條 學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書ヲ與フルコトヲ得

修業證書ハ第二號様式ニ依ルヘシ

第二十三條 島民學校ノ學級數ハ司令官之ヲ定ム

第二十四條 一學級ノ兒童數ハ六十人トス但シ特別ノ事情アルトキハ増減スルコトヲ得

第二十五條 學校長ハ學級ヲ編制シ民政署長ヲ經テ司令官ニ報告スヘシ變更シタルトキ亦同シ

第三章 學年、休業日及式日

第二十六條 學年ハ一月一日ニ始リ十二月三十一日ニ終ル

第二十七條 學期ハ分チテ左ノ二學期トス

第一學期 一月一日ヨリ七月三十一日ニ至ル

第二學期 八月一日ヨリ十二月三十一日ニ至ル

第二十八條 休業日ハ左ノ如シ

一、祝日、祭日

二、日曜日

三、靖國神社例祭日、海軍記念日

四、開校記念日

五、學期末休業

七月十六日ヨリ七月三十一日迄

六、年末年始休業

十二月二十九日より翌年一月十五日迄

第二十九條 前條ノ外臨時休業ヲ要スルトキハ學校長ハ其ノ事由ヲ具シ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他急迫ノ場合ニ際シ認可ヲ受クルノ暇ナキトキハ學校長ハ休業ヲ行ヒ速ニ民政署長ニ報告スヘシ

第二十條 祝日ニハ學校長ハ職員及兒童ヲ學校ニ參集セシメ左ノ順序ニ依リ式ヲ行フヘシ

一、君が代

二、祝日ニ關スル訓話

三、祝日唱歌

第四章 入學、在學、退學、卒業

第三十一條 入學スヘキ兒童ノ年齢ハ八歳以上十二歳以下トシ學年ノ始ニ於テ入學セシムヘシ

第三十二條 民政署長ハ學校長ノ意見ヲ徵シ十二月二十八日迄ニ入學セシムヘキ兒童ヲ選定スヘシ

第三十三條 在學兒童正當ノ事由ナク引續キ五日間缺席シタルトキハ學校長ハ其ノ保護者ニ對シ兒童ヲ出席セシムヘキ旨通知シ尙ホ引續キ五日以上出席セサルトキハ其ノ旨民政署長ニ報告スヘシ

第三十四條 民政署長ハ前條ノ報告ヲ受ケタルトキハ當該總村長又ハ村長ニ其ノ兒童ヲ出席セシムヘキ旨嚴達スヘシ

第三十五條 學校長ハ第三號様式ニ依リ學年ノ始ニ於テ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ作成スヘシ

第三十六條 學校長ハ第五號様式ニ依リ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席及缺席ヲ明ニスヘシ

第三十七條 學校長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル兒童ニ停學又ハ退學ヲ命スルコトシ

一、傳染病ニ罹リ又ハ其ノ虞アル者

二、性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

三、學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者

四、正當ノ事由ナクシテ引續キ三十日以上缺席シタル者又ハ出席常ナラサル者

第三十八條 保護者其ノ兒童ヲ退學セシムトスルトキハ事由ヲ具シ學校長ニ申出テ許可ヲ受クヘシ

第三十九條 學校長ハ前二條ノ處置ヲナシタルトキハ民政署長ニ報告スヘシ

第四十條 學校長ハ每學年ノ終ニ卒業シタル兒童ノ氏名ヲ民政署長ニ報告スヘシ

第五章 職員

第四十一條 島民學校ニ左ノ職員ヲ置ク

一、學校長

一、訓導

一、准訓導

一、代用教員

第四十二條 學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ校務ヲ掌理シ所屬職員ヲ統督ス

第四十三條 訓導、准訓導、代用教員ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ兒童ノ教育ヲ擔任シ庶務ニ従事ス

第四十四條 學校長、訓導、准訓導ハ司令官之ヲ命免シ代用教員ハ民政署長之ヲ命免ス

訓導ハ小學校本科正教員ノ資格ヲ有スル者ヨリ之ヲ採用ス

第六章 監督及管理

第六章 南洋群島ノ教育

子弟即ち國語を常用せざる兒童に初等普通教育を授くる公學校が官立學校として設けられた。

南洋廳公學校官制

- 第一條 南洋廳公學校ハ國語ヲ常用セサル兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス
- 第二條 公學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

訓導 專任四十八人 判任

- 第三條 學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス
- 第四條 訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス
- 第五條 公學校ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ臨時南洋群島防備隊ニ在勤スル海軍教員別ニ辭令書ヲ交付セラレサルトキハ同俸給ヲ以テ南洋廳公學校訓導ニ任セラレタルモノトス

公學校の訓導は純然たる判任官であるから其俸給及等級等一般のことは官吏に關する規程に依るのである。

大正十一年四月一日南洋廳令第三十二號を以て左の如く南洋廳公學校規則が定められた。
南洋廳公學校規則左ノ通定ム

南洋廳公學校規則

第一章 總則

- 第一條 公學校ニ於テハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ德育ヲ施シ生活ノ向上改善ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
- 第二條 公學校ノ修業年限ハ三年トス
- 第三條 土地ノ情況ニ依リ公學校ニ補習科ヲ置クコトアルヘシ
- 第四條 補習科ノ修業年限ハ二年以内トス
- 第五條 補習科ハ公學校ヲ卒業シタル者ヲシテ公學校ノ教科目ヲ補習セシムルモノトス

第二章 教科及編制

第一節 教科目

- 第六條 公學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、圖畫、唱歌、體操、手工、農業及家事トス但シ農業ハ男兒ニ之ヲ課シ家事ハ女兒ニ之ヲ課スルモノトス
 - 土地ノ情況ニ依リ前項ノ教科目中修身、國語、算術ノ外他ノ教科目ヲ減シ又ハ必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得
 - 前項ニ依リ教科目ヲ加除セムトスルトキハ支廳長ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
 - 第七條 公學校ノ教科目中兒童ノ特別ノ事情ニ依リ學習スルコト能ハサル教科目ハ之ヲ其ノ兒童ニ課セサルコトヲ得
 - 第八條 補習科ノ教科目、教授ノ程度及每週教授時數ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二節 教則及教科用圖書

第九條 公學校ニ於テハ第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

何レノ教科目ニ於テモ兒童ノ心身發達ノ程度並男女ノ特性ニ應ジ適當ノ教育ヲ施シ常ニ徳性ノ涵養ト國語ノ習熟ニ留意スヘシ

知識、技能ニ關シテハ常ニ土地ノ情況ニ鑑ミ其ノ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用ヲ自在ナラシメ實用ニ適セシムコトヲカムヘシ

各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益セシムルコトヲ要ス

第十條 修身ハ兒童ノ特性ヲ涵養シ道德ノ實踐ヲ指導スルヲ以テ要旨トス

修身ハ近易適切ナル事項ヨリ始メテ人倫道德ノ要旨ヲ授ケ漸ク進ミテハ社會ニ對スル責務ノ一班ニ及ホシ以テ品位ヲ高メ志操ヲ固クシ且進取ノ氣象ヲ長シ公德ヲ尙ヒ公益ニ力ヲ盡シ善良ナル社會ノ一員タルノ性格ヲ涵養セムコトヲカムヘシ

女兒ニ在リテハ特ニ貞淑ノ徳ヲ養ハムコトヲカムヘシ

修身ヲ授クルニハ嘉言、善行及諺辭ニ基キテ勸戒シ常ニ之ヲ服膺セシムコトヲカムヘシ

第十一條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及平易ナル口語文ヲ教ヘ其ノ應用ヲ自在ナラシメ正確ニ思想ヲ發表スルノ能ヲ養ヒ特ニ言語ノ練熟ヲ主トシテ日常國語ヲ使用スルニ支障ナキ程度ニ至ラシメ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ以テ要旨トス

國語ハ初ハ主トシテ近易ナル話方ヲ授ケ發音ヲ正シ片假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテハ日常須知ノ文字及簡易ナル口語文ニ及ホシ特ニ普通用語ノ練達ニカムヘシ

讀ミ方ハ發音語調ヲ正確流暢ナラシメ語句ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシムコトヲカムヘシ

書キ方ハ實用ヲ旨トシ漢字ノ書體ハ楷書トシ假名ハ片假名及平假名トシ其ノ習熟ニカムヘシ

綴リ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及兒童ノ見聞シタル事項並處世ニ必須ナル事項ヲ口語體ニテ記述セシメ其ノ行文ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナラムコトヲカムヘシ

第十二條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ正確ナラシムルヲ以テ要旨トス

算術ハ初ハ二十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル數ヘ方書キ方及加減乗除ヲ授ケ進ミテハ百以上ノ數ニ及ホシ日常必要ナル計算ノ習熟ニカムヘシ

算術ハ初ハ暗算ヲ用キ進ミテハ筆算ヲ併セ課シ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常ノ生活ニ適切ナルモノヲ選フヘシ

算術ヲ授クルニハ理會ヲ正確ニシ暗算及運算ニ習熟セシメ應用ヲ自在ナラシムルコトヲ要ス

第十三條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ描クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ成ルヘク兒童ノ日常目撃セル事物ヲ選ヒ寫生畫ヲ主トシ適宜臨畫、考案畫等ヲ交ヘ課スヘシ

圖畫ヲ授クルニハ形體ヲ看取シテ正シク之ヲ描カシメ且意匠ヲ練ラシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハムコトニ注意スヘシ

第十四條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス

唱歌ハ平易ナル單音唱歌ヲ授ケ歌詞ハ口語文ノモノヲ多カラシメ成ルヘク其ノ意味ヲ了解セシメ樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヲ要ス

第十五條 體操ハ身體ノ各部ヲ生理的ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ主トシテ遊戲ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男兒及女兒ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ

體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢及規律ハ常ニ之ヲ保タシムルコトヲ力ムヘシ

第十六條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工藝ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
手工ハ紙、糸、植物纖維、竹、木等ノ材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ併セテ其ノ材料ノ品類、性質及用具ノ使用方等ヲ教示スヘシ

第十七條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス

農業ハ土地ノ情況ニ依リ農事若ハ水産ヲ授ケ又ハ農事、水産ヲ併セ授クヘシ農事ハ栽培、養畜、植樹等ニ就キ水産ハ漁撈、養殖等ニ就キ其ノ土地ニ適切ナルモノヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ實習ニ重キヲ置キ又理科的知識ヲ授クルコトニ留意スヘシ

第十八條 家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識ヲ習得セシメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約、利用、秩序、清潔等ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、裁縫其ノ他一家ノ經濟等ニ關スル簡易ナル事項ノ大要ヲ授クヘシ

家事ヲ授クルニハ日常ノ生活狀態ニ留意シ其ノ材料ハ平常所用ノモノニ採リ又實習ニ重キヲ置キ土地ノ情況ニ適切ナラシムコトヲ力ムヘシ

第十九條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ別表ニ依ル但別表ニ依リ難キ事情アルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ支廳長之ヲ定ム

第二十條 公學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得

第二十一條 學校長ハ一學年間ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第二十二條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

第二十三條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ全教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業徽章ヲ授與スヘシ

第二十四條 公學校ノ教科用圖書ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三節 學年、學期、休業日及祝日

第二十五條 公學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ハ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第二十六條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第二十七條 公學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日 大祭日

二 日曜日

三 始政記念日

四 第一學期末休業八月二十二日より八月三十一日迄

五 年年始休業十二月二十五日より翌年一月七日迄

六 學年末休業三月二十五日より三月三十一日迄

第二十八條 特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ要スル場合ニ於テハ學校長ハ其ノ事由及之カ爲ニ減スル各教科目教授ノ補充方法ヲ具シ支廳長ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得其ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ支廳長ニ報告スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ支廳長ハ速ニ之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ

第二十九條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニ於テハ職員及兒童ハ學校ニ參集シ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行フヘシ

一 職員及兒童ハ「君カ代」ヲ合唱ス

二 學校長ハ其ノ祝日ニ關スル訓話ヲナス

三 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

第四節 編制

第三十條 公學校ノ學級數ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第三十一條 土地ノ情況ニ依リ必要アル場合ニ於テハ學校長ハ支廳長ノ認可ヲ得テ全部又ハ一部ノ兒童ヲ前後二部

ニ分テ教授スルコトヲ得

第三十二條 公學校ニ於テハ各學級ニ訓導一人ヲ置ク

第三十三條 訓導ノ教授ヲ補助セシムル爲公學校ニ助教員ヲ置ク

助教員ハ支廳長之ヲ命ス

助教員ノ採用ニ關スル規程ハ南洋廳長官之ヲ定ム

特別ノ事情アル場合ニ於テハ囑託教員ヲシテ教授ヲ補助セシムルコトアルヘシ

第三章 設備

第三十四條 校地、校舎、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ノ外公學校ノ教授ニ妨ケナキ限り教育、産業、衛生、慈善等ノ目的ノ爲使用スルコトヲ得

第四章 入學、在學、退學及懲戒

第三十五條 公學校ニ入學スルコトヲ得ル者ハ學年開始ノ際ニ於テ滿八年以上トス

第三十六條 公學校ニ兒童ヲ入學セシムルトキハ其ノ保護者ハ左ノ事項ヲ具シ學校長ニ申出ツヘシ

- 一 兒童保護者ノ氏名、出生年月日(又ハ推定年齢)、現住所
- 二 兒童入學前ノ經歷
- 三 保護者ノ職業及兒童トノ關係

第三十七條 他ノ公學校ニ轉學ヲ志願スル兒童アルトキハ學校長ハ正當ノ事由アリト認メタル場合ニ限り其ノ兒童ノ在學證明書及成績表ヲ轉學先學校ニ送付スヘシ

轉學ヲ許可スル兒童ハ試験ヲ行ハスシテ同一學年ニ之ヲ編入スヘシ

第三十八條 學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第三十九條 學校長ハ教育上必要ト認ムルトキハ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第四十條 兒童ヲ退學セシムルトキハ其ノ保護者ニ於テ事由ヲ具シ學校長ニ届出ツヘシ

第四十一條 學校長ハ在學兒童ニシテ左ノ各號ニ該當スル者アルトキハ支廳長ノ認可ヲ得テ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

- 一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者
- 二 學力劣等ニシテ成業ノ見込ナシト認メタル者
- 三 正當ノ事由ナク引續キ一月以上缺席シタル者

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島島民學校規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ南洋群島島民學校又ハ其ノ分校ニ在學スル兒童ハ本令ニ依ル公學校ノ相當學年ニ編入ス
(別表)

教科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語	一二	一二	一二
算術	四	四	四
國畫	一	一	一
唱歌	二	二	二
體操	二	二	二
手工	一	一	一
農業	一	一	一
家事	一	一	一
計	二四	二四	二四

教科目	學年		
	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
國語	一二	一二	一二
算術	四	四	四
國畫	一	一	一
唱歌	二	二	二
體操	二	二	二
手工	一	一	一
農業	一	一	一
家事	一	一	一
計	二四	二四	二四

土地ノ情況ニ依リ手工、農業及家事ノ實習ニ關シテハ規定ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得
新規則に依れば公學校の修業年限は三箇年とし、修業年限二箇年以内の補習科を置くことあるべしとした。従前の南洋群島島民學校規則に於ては入學年齢を八歳以上十二歳以下としたが、新規則に於ては單に八歳以上とし最高年齢の制限を廢した。又舊規則に於ては兒童をして皇恩を感受せしむべき點を高調したが、新規則に於ては兒童身體の發達に留意して德育を施し、生活の向上改善に必須なる普通の知識技能を授くるを以て本旨とした。

大正十一年八月十七日勅令第三百七十九號を以て左の如く「樺太廳中學校教諭、樺太廳高等女學校教諭又ハ南洋廳公學校ノ訓導ニシテ舍監事務ニ従事スル者ノ手當給與ニ關スル件」が定められた。

樺太廳中學校若ハ樺太廳高等女學校ノ教諭又ハ南洋廳公學校ノ訓導ニシテ舍監事務ニ従事スル者ニハ月額十五圓以内ノ手當ヲ給スルコトヲ得

前項手當ノ額及支給方法ハ樺太ニ在リテハ樺太廳長官、南洋ニ在リテハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十年勅令第二百九十五號ハ之ヲ廢止ス

支廳所在地の公學校に於ては學校所在地外より入學せる兒童を寄宿舎に收容し、兒童の日常生活を指導することとせる爲、訓導にして舍監事務に従事するものがあり、前記勅令の制定を必要としたのである。

大正十二年二月二十八日勅令第四十號を以て大正十一年勅令第三百七十九號中に改正が行はれたが、これは南洋廳に關しては南洋廳公學校の訓導が教員と改められたに過ぎなかつた。

大正十二年四月一日支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二十一號を以て左の如く南洋廳公學校助教員採用規程が定められた。

南洋廳公學校助教員採用規程左ノ通定ム

南洋廳公學校助教員採用規程

第一條 助教員ハ左ノ條件ヲ具フル島民ノ中ヨリ學術試驗ヲ行ヒ身許調査ヲ經テ之ヲ採用スヘシ但シ公學校又ハ之

ト同等以上ノ學校ヲ優等ノ成績ニ依リ卒業シタル者ニ在リテハ學術試驗ヲ行ハサルコトヲ得

一 年齢十六年以上ノ者

二 品行方正ナル者

三 身體諸機關完具シ機能健全ニシテ姿勢端正ナル者

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ助教員タルコトヲ得ス

一 粗暴過激ノ性癖ヲ有スル者

二 曾テ刑罰ヲ受ケタル者

第三條 學術試驗ハ修身、國語、算術、圖畫、唱歌、體操、手工、農業(女子志願者ニ在リテハ家事)ノ八科目ニ付

南洋廳公學校卒業ノ程度ニ於テ支廳長ノ命スル試驗委員ヲシテ之ヲ行ハシム

第四條 學術試驗ヲ行ヒタルトキハ試験委員ニ於テ第一號様式ニ依リ學術試験成績表ヲ作成スヘシ

第五條 學術試験ニ合格シタル者ニ對シテハ支廳長ハ第二號様式ニ依リ身許調査ヲ爲スヘシ

第六條 支廳長助教員ヲ採用シタルトキハ學術試験成績表及身許調査書ヲ添ヘ南洋廳長官ニ報告スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ助教員タル者ハ本令ノ試験ヲ經タル者ト看做ス

(第一號乃至第二號様式) 略

大正十三年八月勅令第九十七號を以て大正十一年勅令第三百七十九號「樺太廳中學校教諭、樺太廳高等女學校教諭又ハ南洋廳公學校ノ訓導ニシテ合監事務ニ従事スル者ノ手當給與ニ關スル件」中に改正が行はれたが、これは朝鮮及臺灣に關することで南洋廳公學校教員に關する限り何等の變更はなかつた。

大正十五年五月十日勅令第四百四號を以て左の如く南洋廳公學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳公學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任四十八人」ヲ「訓導 專任五十四人」ニ改ム

第五條 公學校ニ徒弟養成所ヲ附置スルコトヲ得

南洋廳長官ハ公學校ノ職員ヲシテ徒弟養成所ノ生徒ノ教育ヲ擔任セシメ又ハ所務ヲ掌ラシムルコトヲ得

第六條 公學校及徒弟養成所ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條に於て公學校に徒弟養成所を附置し得ることが規定せられたが、これは實業教育に屬するものであるから其詳細は實業教育の款に於て之を述べることにする。

大正十五年五月二十九日南洋廳令第二號を以て左の如く南洋廳公學校規則中に改正が行はれた。

南洋廳公學校規則中左ノ通改正ス

第三十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

但シ特別ノ必要アリト認ムルトキハ定員ヲ増スコトアルヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年五月にはヤツブ島マキ及ボナベ島ウー村に公學校が設置せられた。

大正十五年八月三日支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二十號を以て左の如く公學校兒童給與規程が定められた。

公學校兒童給與規程左ノ通定ム

公學校兒童給與規程

第一條 公學校兒童ニハ本令ノ定ムル所ニ依リ學用品、食糧及被服ヲ給與ス

第二條 學用品ハ現品ヲ以テ給與スルモノ、貸與スルモノ及代料支給ノモノノ三種トス

第三條 教科書ハ年度初ニ現品ヲ以テ給與ス其ノ種類左ノ如シ

南洋
群島國語讀本

第四條 學用品中永年使用シ得ルモノハ學校ノ備品トシ必要ノ都度兒童ニ貸與スルコトヲ得

第五條 學習帳、筆紙墨等ノ學用品ハ左ノ區分ニ從ヒ代料ヲ以テ之ヲ支給ス但シ學校長ニ於テ相當資力アリト認メタル者ノ兒童ニハ其ノ全部又ハ一部ヲ自辨セシムルコトヲ得

本科兒童一人ニ付 年額一圓五十錢

補習科兒童一人ニ付 年額二圓

前項ノ學用品ハ支給額ノ範圍内ニ於テ現品ヲ以テ給與スルコトヲ得

第六條 前條ノ學用品又ハ其ノ代料ハ必要ノ都度之ヲ支給ス

第七條 食糧ハ公學校ノ寄宿兒童ニシテ交通其ノ他ノ事情ニ依リ食糧ヲ得難キ者ニ對シ一食七錢ノ割合ニ依リ代料ヲ以テ之ヲ支給ス

第八條 前條ノ食料ハ前月分ヲ翌月五日迄ニ之ヲ支給ス

第九條 食料ヲ支給スヘキ兒童及其ノ食數ハ學校長之ヲ定ム

第十條 食料ノ支給ヲ受クル兒童歸郷スル場合ハ著郷ノ日迄之ヲ支給ス但シ學校長ニ於テ其ノ必要ナシト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 被服ハ著衣ノ慣習ナキ地方ノ者又ハ特別ノ事情アル者ニ對シ兒童一人ニ付年額五圓代料ヲ以テ之ヲ支給ス但シ著衣ノ慣習ナキ地方ノ者ト雖モ一部又ハ全部ノ兒童ニ給セサルコトヲ得

前項ノ被服ハ支給額ノ範圍内ニ於テ現品ヲ以テ給與スルコトヲ得

第十二條 前條ノ被服又ハ其ノ代料ハ四月九月ノ二回ニ之ヲ支給ス

第十三條 被服又ハ其ノ代料ヲ給スヘキ兒童及被服ノ種類數量ハ學校長之ヲ定ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス但シ第五條ノ規定ニ限り大正十六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

木工徒弟養成所生徒ノ給與ニ關シテハ別ニ定ムル所ニ依ル

昭和二年七月にはトラツク諸島春島に公學校が設置せられた。

昭和二年十一月勅令第三百十八號を以て大正十一年勅令第三日七十九號中に改正が行はれたが、これは南洋廳に關しては、南洋廳公學校の教員とあつたのを、南洋に於ける官立の學校の教員と改められたのであつた。

昭和二年十一月ヤルト支廳管内エボン島村民は同島村民の子弟の爲エボン島に私立學校を設立した。初め南洋廳は島民學校として認可したが、後昭和三年三月より教科課程其他修業年限を改正して南洋廳公學校と同一ならしめ、私立エボン公學校と改稱せしめた。

昭和三年七月十五日南洋廳令第四號を以て左の如く南洋廳公學校規則中に改正が行はれた。

南洋廳公學校規則中左ノ通改正ス

第六條 公學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、理科、圖畫、手工、唱歌、體操、農業トシ女兒ノ爲ニハ家事ヲ加フル

補習科ニ於テハ前項ノ教科目ノ外地理ヲ加フル

土地ノ情況ニ依リ前二項ノ教科目中身、國語、算術ノ外他ノ教科目ヲ減シ又ハ必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得
前項ニ依リ教科目ヲ加除セムトスルトキハ支廳長ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ
第八條 削除

第十條第二項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第三項以下ヲハ次線下ク

補習科ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ一層陶冶ノ效ヲ堅實ナラシムコトヲカムヘシ

第十一條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及平易ナル口語文ヲ教ヘ其ノ應用ヲ自在ナラシメ正確ニ思想ヲ發表
スルノ能ヲ養ヒ特ニ言語ノ練熟ヲ主トシテ日常國語ヲ使用スルニ支障ナキ程度ニ至ラシメ兼テ智徳ヲ啓發スルヲ
以テ要旨トス

國語ハ初ハ主トシテ近易ナル話シ方ヲ授ケ發音語調ヲ正シ假名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ漸ク進ミテ
ハ日常須知ノ文字及簡易ナル口語文ニ及ホシ特ニ普通用語ノ練達ニカムヘシ

補習科ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ日常須知ノ文字及口語文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ授ケ又言語ヲ練習
セシムヘシ

讀ミ方、書キ方、綴リ方及話シ方ハ各々其ノ主トスル所ニ依リ教授時間ヲ區別スルコトヲ得ルモ特ニ注意シテ相
聯絡セシムコトヲ要ス

讀本ノ文章ハ平易ニシテ國語ノ模範ト爲リ且兒童ノ心情ヲ快活純正ナラシムルモノナルヲ要シ其ノ材料ハ修身、
歴史、地理、理科其ノ他生活ニ必須ナル事項ニ取り趣味ニ富ムモノタルヘシ

書キ方ニ用フル漢字ノ書體ハ楷書トシ假名ハ片假名、平假名ノ二種ヲ用ヒ實用ヲ旨トシテ其ノ習熟ニカムヘシ

綴リ方及話シ方ハ讀ミ方又ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常見聞セル事項及處世ニ必須ナル事項ヲ
選ヒテ之ヲ授ケ其ノ行文及談話ハ平易ニシテ旨趣明瞭ナラムコトヲ要ス

國語ヲ授クルニハ語句文章ノ意義ヲ明瞭ニシ且其ノ用法ニ習熟セシムコトヲカムヘシ

第十二條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ正確ナラシムルヲ以テ要旨トス

算術ハ初ハ小ナル整数ノ範圍内ニテ其ノ唱へ方、書キ方及簡易ナル計算ヲ授ケ次第ニ其ノ範圍ヲ擴メテ之ヲ授ク
ヘシ

補習科ニ於テハ前項ノ範圍ヲ擴メテ小数、分數ニ及ホシ更ニ其ノ程度ヲ進メ且簡易ナル歩合算ヲ授クヘシ又珠算
ヲ併セ課スルコトヲ得

算術ハ初ハ暗算ヲ用ヒ進ミテハ筆算ヲ併セ課シ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項及土地ノ情況ヲ斟酌シテ日
常ノ生活ニ適切ナルモノヲ選フヘシ

算術ヲ授クルニハ實驗實測ヲ用ヒ運算ノ方法及理由ヲ正確ニ説明セシメテ理會ヲ精確ニシ運算ニ習熟シテ應用自
在ナラシムコトヲカメ且暗算ニ熟達セシムコトヲ要ス

第十二條ノ二 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ又世界ノ大勢ヲ理會セシムルヲ以
テ要旨トス

地理ハ群島ヨリ始メテ日本ニ及ホシ進ミテハ世界各大洲ノ地勢、氣候、區劃、交通等ノ概略ヲ授クヘシ

地理ヲ授クルニハ成ルヘク地球儀、地圖、標本、繪畫、寫眞等ヲ示シテ確實ナル知識ヲ得シメムコトヲカムヘ
シ

第十二條ノ三 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス
理科ハ植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キ主トシテ兒童ノ目撃シ得ル事項ヲ授ケ特ニ重要ナル植物、動物、礦物ノ名稱、形狀、效用及發育ノ大要ヲ知ラシメ又通常ノ物理、化學上ノ現象ヲ授ケ且日常ニ於ケル衛生上ノ注意ヲ教フヘシ

補習科ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ之ヲ授ケ且人身生理衛生ノ初歩ヲ授クヘシ
理科ニ於テハ力メテ農業、工業、家事等ニ適切ナル事項ヲ授ケ特ニ植物、動物等ニ就キ教授スル際ニハ之ヲ以テ製スル重要ナル加工品ノ製法、效用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ
理科ヲ授クルニハ成ルヘク實地ノ觀察ニ基キ若ハ標本、模型、圖畫等ヲ示シ又簡單ナル實驗ヲ施シ明瞭ニ理解セシムコトヲ要ス

第十三條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ以テ要旨トス

圖畫ハ單形ヨリ始メ漸ク簡單ナル形體ニ及ホシ實物若ハ手本ニ就キ又時々自己ノ工夫ヲ以テ畫カシムヘシ
補習科ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ諸般ノ形體ヲ畫カシムヘシ

圖畫ヲ授クルニハ成ルヘク他ノ教科目ニ於テ授ケタル物體及兒童ノ日常目撃セル物體中ニ就キテ之ヲ畫カシメ兼テ清潔ヲ好ミ綿密ヲ尙フノ習慣ヲ養ハムコトニ注意スヘシ

第十三條ノ二 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工藝ノ趣味ヲ長シ兼テ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

手工ハ紙、絲、植物纖維、竹、木等ノ材料ヲ用ヒテ簡易ナル製作ヲ爲サシメ補習科ニ於テハ製圖及女兒ニ在リテハ手藝ヲ簡易ナル程度ニ於テ併セ課スヘシ
手工ヲ授クル際ニハ用具ノ使用方、材料ノ品類、性質等ヲ教示スヘシ

第十四條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資スルヲ以テ要旨トス
唱歌ハ平易ナル單音唱歌ヲ授クヘシ

補習科ニ於テハ前項ニ準シ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又便宜簡易ナル複音唱歌ヲ授クルコトヲ得
歌詞及樂譜ハ平易雅正ニシテ兒童ノ心情ヲ快活純美ナラシムルモノタルヘシ

第十五條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

體操ハ體操、教練、遊戲及競技ニ就キ簡易ナル動作ヨリ始メ漸ク其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ又男女ノ別ニ依リ其ノ授クヘキ事項ヲ斟酌スヘシ

補習科ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リ體操ノ教授時間ノ一部若ハ教授時間ノ外ニ於テ適宜ノ戶外運動ヲ爲サシムルコトヲ得
體操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保持シメムコトヲ力ムヘシ

第十六條 削除

第十七條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ兼テ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス
農業ハ土地ノ情況ニ依リ農事若ハ水産ヲ授ケ又ハ農事、水産ヲ併セ課スヘシ

第三編 新領土其他に於ける教育

農事ハ土壤、水利、肥料、農具、耕耘、栽培、養畜、植樹等ニ就キ水産ハ漁撈、養殖、製造等ニ就キ土地ノ情況ニ適切ニシテ兒童ノ理解シ易キ事項ヲ授クヘシ

補習科ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

農業ヲ授クルニハ實習ニ重キヲ置キ特ニ地理、理科等ノ教授事項ト關聯シ時々其ノ土地實際ノ業務ニ就キテ示教シ其ノ知識ヲ確實ナラシムコトヲ力ムヘシ

第十八條 家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約、利用、秩序、清潔ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス

家事ハ衣食住、看病、育兒、裁縫其ノ他一家ノ經濟等ニ關スル事項ノ大要ヲ授クヘシ

補習科ニ於テハ前項ニ準シ一層其ノ程度ヲ進メテ之ヲ授クヘシ

家事ヲ授クルニハ特ニ理科トノ聯絡ニ注意シ又實習ニ重キヲ置キ土地ノ情況ニ適切ナラシムコトヲ力ムヘシ

第十九條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第一號表ニ依ル

補習科ニ於ケル各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第二號表ニ依ル

前二項ノ規定ニ依リ難キ事情アルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ支廳長之ヲ定ム

第二十六條ノ二 學校長ハ兒童ノ保健上必要ト認メタルトキハ一年ノ中五十日ヲ限り支廳長ノ認可ヲ經テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得

支廳長前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ南洋廳長官ニ報告スヘシ

第二十九條中「天長節祝日」ヲ「天長節、明治節」ニ改ム

第三十五條 公學校ニ入學スルコトヲ得ルモノハ學年開始ノ前ニ於テ滿八歳以上ノ者トス

附則

本令ハ昭和三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

公學校補習科ノ教科目、教授ノ程度及每週教授時數ニ關スル規程ハ之ヲ廢止ス

第一號表

教科目	學年	每週教授時數	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	道德ノ要旨	道德ノ要旨	道德ノ要旨
國語	一二	一二	發音 話シ方及假名、日常 須知ノ文字並近易ナル 口語文ノ讀ミ方、 書キ方、綴リ方	話シ方及假名、日常 須知ノ文字並近易ナル 口語文ノ讀ミ方、 書キ方、綴リ方	話シ方及日常須知ノ 文字並近易ナル口語 文ノ讀ミ方、書キ方、 綴リ方
算術	五	五	百以下ノ數ノ唱ヘ 方、書キ方及簡易ナル 計算	千以下ノ數ノ唱ヘ 方、書キ方及簡易ナル 計算	整數ノ計算
理科	一	二	天然物、自然現象ノ 觀察		植物、動物、礦物及 自然ノ現象、化學上 ノ物理、化學上 ノ現象 ノ日常ニ於ケル衛生上 ノ注意
圖畫	一	一	單形 簡單ナル形體	單形 簡單ナル形體	單形 簡單ナル形體
手工	一	一	簡易ナル細工	簡易ナル細工	簡易ナル細工

計	家事	農業	體操	唱歌	
				平易ナル單音唱歌	體操、教練、遊戲及競技
計				三	
男二五 女二六	女一	一	二	一	二
	近易ナル家事ノ大要及通常衣類ノ裁縫	農業ノ大要	體操、教練、遊戲及競技	平易ナル單音唱歌	
男二七 女二九	女二	二	二	一	二
	近易ナル家事ノ大要及通常衣類ノ裁縫	農業ノ大要	體操、教練、遊戲及競技	平易ナル單音唱歌	

實習ニ關シテハ規定ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得
第二號表

教科目	學年	授每 時週 數	第一學年		第二學年	
			授每 時週 數	授每 時週 數	授每 時週 數	授每 時週 數
修身	一	一	一	一	一	一
國語	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
算術	四	四	四	四	四	四
地理	一	一	一	一	一	一
理科	二	二	二	二	二	二
圖畫	一	一	一	一	一	一

計	家事	農業	體操	唱歌	手工	
					簡易ナル細工	簡易ナル細工
計				一	二	二
男二八 女三〇	女二	四	二	一	二	二
	近易ナル家事ノ大要及通常衣類ノ裁縫	農業ノ大要	體操、教練、遊戲及競技	單音唱歌 (簡易ナル複音唱歌)	簡易ナル細工	簡易ナル細工
男二八 女三〇	女二	四	二	一	二	二
	近易ナル家事ノ大要及通常衣類ノ裁縫	農業ノ大要	體操、教練、遊戲及競技	單音唱歌 (簡易ナル複音唱歌)	簡易ナル細工	簡易ナル細工

實習ニ關シテハ規定ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

昭和三年七月にはトラツク諸島冬島に公學校が設置せられた。

昭和三年八月二十三日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二十一號を以て左の如く公學校規則改正要旨並實施上の注意が發せられた。

公學校規則改正ニ付左ノ通心得ヘシ

公學校規則改正要旨並實施上ノ注意

今般南洋廳令第四號ヲ以テ南洋廳公學校規則中ニ改正ヲ加ヘタリ今左ニ改正ノ要旨並實施上特ニ注意スヘキ點ヲ舉示スヘシ

一、從來ノ規定ニ於テハ午前授業即チ一日四時間ノ授業ヲ以テ本體トシ各學年ヲ通シ同時數ヲ配當シタルモ群島ノ風土氣候ハ從來ノ經驗上午後授業ヲ爲スモ兒童ノ心身ニ惡影響ヲ及ホスコトナキノミナラス低學年ニ於テハ教授時數ヲ少クシ高學年ニ於テ之ヲ多クスルハ教授ノ能率増進上適當ト認メ彼此配當シ結局ニ於テ教壇時數ノ增加ヲ計リタリ而シテ教科目中ニ新ニ地理、理科ノ加ヘ之ニ其ノ時數ヲ配當シタルノミナラス他ノ教科目ニ於テモ其ノ每週教授時數ヲ適當ニシ日常生活上必須ナル知識ヲ出來得ル限リ多ク授クルコトトセリ

二、算術ハ第一學年ヨリ第三學年迄每週一時間宛教授時數ヲ増加シタルヲ以テ整數ノ計算ハ略々第三學年迄ニ完了セシメ補習科ニ於テハ從來ヨリ範圍ヲ擴メテ小數、分數ニ及ホシ更ニ進ミテ歩合算ヲモ授クルコトトセリ然レトモ現在ノ時間數ニ於テ小學校ト同一程度ニ教授スルコトハ困難ナルヲ以テ寧ロ一般ニ之ヲ低クシ簡易ナル問題ニ依リ兒童ノ理會ヲ徹底セシムルコトニ注意スヘシ

三、地理科ニ於テ群島地理ニ關スル知識ノ一班ヲ授ケ次テ統治國タル我カ日本地理ノ大要ヲ知ラシメ更ニ進ミテ世界各大洲地理ノ概要ヲ教フルハ彼等ノ知見ヲ廣メ向上進歩ノ念ヲ起サシムカ爲ニシテ所謂地理學ノ系統ニ從テ普ク之ヲ授ケ或ハ特殊ノ問題ニ就キ詳説スルカ如キハ兒童ノ知能ノ程度並配當時間ヨリ考察シ到底不可能ナルノミナラス却テ本科ヲ課スル趣旨ニ背馳ス殊ニ世界各大洲ノ地理ニ就テハ最重要必須ノ事項ノミヲ選ビ而モ大綱ヲ漏ササルヲ旨トシ簡易ニ之ヲ授クルヲ要ス而シテ本科ノ目的ヲ達スルニ必要ト認メタル場合ニハ之ニ附帶シテ歴史ノ事項ヲ授クルモ可ナリトス

四、理科ハ從來獨立ノ教科目ト爲サス他ノ教科目ニ附隨シテ之ヲ授クルノ方針ヲ採リシカ尙未タ足ラサルノ憾アルヲ以テ今回之ヲ獨立ノ教科目トシ第二學年ヨリ之ヲ課スルコトトセリ然レトモ之ヲ課スルハ島民ノ日常生活

上必須ナル知識ヲ得シメ其ノ生活ノ改善向上ニ資スル所アラシムカ爲メナルヲ以テ之カ教授ノ材料ハ主トシテ群島ノ事物ニ採リ實際生活ニ適切ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ授クヘシ彼ノ徒ニ高尚ナル事項ヲ授ケ或ハ學究的取扱ヲ爲スカ如キハ最モ戒ムヘキ所ナリ

第二學年ノ理科ハ兒童ノ能力ニ稽ヘ天然物及自然現象ノ觀察ヲ爲サシムルコトトシタレハ事物ヲ教ヘムヨリハ兒童ノ觀察力養成ニ重キヲ置カムコトヲ要ス

第三學年及補習科第二學年ニ於テ生理衛生上ノ知識ヲ授クルコトトシタルハ島民ノ生活ヲ向上セシメ彼等ノ衛生狀態ヲ改善セシムルニ特ニ必要ト認メタルニ由ル他ノ教科目ニ於テ授クル所ト相聯關シテ其ノ效果ヲ收メムコトニ注意スヘシ

五、農業ハ從來男兒ニノミ之ヲ課シ女兒ニハ之ヲ課セザリシカ現ニ女子專ラ農業ニ從事スル慣習アル地方尠ラサルノミナラス群島ノ實情ハ女子ニ對シテモ農事ニ關スル知識ヲ授クルヲ適當ト認メ男女共ニ之ヲ課ヘルコトニ改正セリ然レトモ女兒ニ全ク之ヲ課スル必要ナキ地方ニ於テハ公學校規則第十九條第三項ニ依リ南洋廳長官ノ認可ヲ經テ之ヲ課セサルコトヲ得思フニ農業ノ進歩ヲ計リ之ヲ獎勵スルハ島民ノ幸福ヲ増進スル所以ニシテ公學校ノ農業ハ之カ基礎ヲ爲スヘキモノナレハ本科教授ニ當リテハ其ノ影響ノ大ナルニ鑑ミ慎重ニ考究ノ上能ク土地ノ情況ニ適切ナルモノヲ選ヒ其ノ實效ヲ舉ケムコトニ注意スヘシ

六、學校長ニ於テ兒童ノ保健上必要ト認メタル場合ニハ一年ノ中五十日ヲ限リ毎日ノ教授時數ヲ減シ得ルコトトシタルハ主トシテ酷暑ノ際午後ニ互リテ授業ヲ爲スノ兒童心身ニ及ホス影響ヲ考慮シタル結果ナリ然レトモ妄ニ之ヲ爲スハ規律ヲ紊ルノ虞アルヲ以テ豫メ支廳長ノ認可ヲ要スルコトトセリ

支廳長ニ於テ右認可ヲ爲シ南洋廳長官ニ報告スル場合ニハ毎日ノ減少時數ヲモ具申スルヲ要ス
右ノ外前記改正ニ伴ヒ必要ナル事項ヲ加除シ及ヒ從來ノ經驗ニ徴シ必要ナル改正ヲ行ヒ以テ時勢ノ進運ト共ニ益々
公學校教育ノ内容ヲ改善充實セムコトヲ計レリ教育ノ事ニ當ル者ハ能ク其ノ趣旨ヲ體シ公學校教育ヲシテ益々實用
ニ適セシメ島民教化ノ實績ヲ舉クルニ於テ遺憾ナカラムコトヲ期スヘシ

昭和三年十月十三日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二十四號及第二十五號を以て左の如く公學校修身科
教授要目及公學校算術科教授要目が定められた。

○南洋廳訓令第二十四號

公學校修身科教授要目左ノ通定ム

公學校修身科教授要目

第一學年 每週一時

- 一、ヨク學ビヨク遊ベ
- 二、時刻ヲ守レ
- 三、ナマケルナ
- 四、友ダチハ助ケアヘ
- 五、元氣ヨクアレ
- 六、タベモノニ氣ヲツケヨ

- 七、キレイニセヨ
- 八、行儀ヲヨクセヨ
- 九、始末ヲヨクセヨ
- 一〇、物ヲ粗末ニスルナ
- 一一、親ノイヒツケヲ守レ
- 一二、過ヲカクスナ
- 一三、ウソヲイフナ
- 一四、自分ノ物ト人ノ物
- 一五、オモヒヤリ
- 一六、生キモノヲ苦シメルナ
- 一七、ヨイ子供

第二學年 每週一時

- 一、孝行
- 二、親類
- 三、兄弟仲ヨクセヨ
- 四、勉強セヨ
- 五、キマリヨクセヨ

- 六、自慢スルナ
- 七、臆病デアアルナ
- 八、カラダヲ丈夫ニセヨ
- 九、友ダチニ親切デアレ
- 一〇、無作法ナコトヲスルナ
- 一一、人ノ過ヲユルセ
- 一二、悪イススメニ従フナ
- 一三、正直
- 一四、約束ヲ守レ
- 一五、トシヨリニ親切デアレ
- 一六、人ノ難儀ヲスクヘ
- 一七、辛抱強クアレ
- 一八、工夫セヨ
- 一九、規則ニ従ヘ
- 二〇、ヨイ子供

第三學年 毎週一時

一、天皇陛下

- 二、祝日
- 三、恩ヲ忘レルナ
- 四、師ヲウヤマヘ
- 五、學問
- 六、身體
- 七、仕事ニハゲメ
- 八、儉約
- 九、慈善
- 一〇、正直
- 一一、清潔
- 一二、整頓
- 一三、行儀
- 一四、勇氣
- 一五、堪忍
- 一六、寛大
- 一七、共同
- 一八、近所ノ人

第六章 南洋群島の教育

- 一九、公益
- 二〇、ヨイ人

補習科第一學年 毎週一時

- 一、孝行
- 二、兄弟
- 三、朋友
- 四、規律
- 五、克己
- 六、忠實
- 七、責任ヲ重ンゼヨ
- 八、職業
- 九、財産
- 一〇、ヨイ習慣ヲ造レ
- 一一、迷信ニ陥ルナ
- 一二、禮儀
- 一三、人ノ名譽ヲ重ンゼヨ
- 一四、生き物ヲアハレメ

- 一五、博愛
- 一六、國旗
- 一七、祝日、大祭日
- 一八、法令ヲ重ンゼヨ
- 一九、公益
- 二〇、ヨイ人

補習科第二學年 毎週一時

- 一、納税
- 二、教育
- 三、衛生
- 四、勤儉
- 五、貯蓄
- 六、恆産
- 七、進取ノ氣象
- 八、修養
- 九、勇氣
- 一〇、忍耐

- 一一、反省
- 一二、謙遜
- 一三、耻ヲ知レ
- 一四、同情
- 一五、信義
- 一六、誠實
- 一七、謝恩
- 一八、共同
- 一九、男子ノ務ト女子ノ務
- 二〇、ヨイ人

以上

○南洋廳訓令第二十五號

公學校算術科教授要目左ノ通定ム

公學校算術科教授要目

第一學年 毎週五時

本學年ニ於テハ一〇以下ノ數ニ就キテ明確ナル觀念ヲ與ヘ且二〇以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル暗算ヲ課シ就中基礎ニ基礎ヲ足ス寄算及ビ其ノ逆タル引算ニ習熟セシメ以テ加減ノ基礎ヲ確立セムコトヲ期スベシ

第一學期 一〇以下ノ數ノ加減

- 一、一ツニツト唱フル數ヘ方
- 二、九以下ノ數ニ一ヲ足スコト
- 三、五以下ノ數ニ二ヲ足スコト
- 四、五以下ノ數ニ三ヲ足スコト
- 五、五以下ノ數ニ四ヲ足スコト
- 六、五以下ノ數ニ五ヲ足スコト
- 七、一二ト唱フル數ヘ方
- 八、六以上ノ數ニ二ヲ足スコト
- 九、六以上ノ數ニ三、四ヲ足スコト
- 一〇、六、七ヲ足スコト
- 一一、八、九ヲ足スコト
- 一二、數字ニ依リ數ヲ表スコト
- 一三、一ヲ引クコト
- 一四、二ヲ引クコト
- 一五、三ヲ引クコト
- 一六、四ヲ引クコト

- 一七、五ヲ引クコト
- 一八、六ヲ引クコト
- 一九、七ヲ引クコト
- 二〇、八、九ヲ引クコト
- 二一、一ヨリ一〇マデノ數ヲ表ス漢字
- 二二、復習

第二學期 二〇以下ノ數ノ加減

- 一、一ヨリ一九マデノ數ノ唱ヘ方
- 二、一、二、三ヲ足スコト
- 三、四、五、六、七、八ヲ足スコト
- 四、一一以上ノ數ヲ足スコト
- 五、一九マデノ數ノ書キ方
- 六、一、二、三ヲ引クコト
- 七、四、五、六、七、八ヲ引クコト
- 八、基数ニ二、三ヲ足シテ一一以上ノ數トナル寄算
- 九、基数ニ四、五ヲ足シテ一一以上ノ數トナル寄算
- 一〇、基数ニ六、七ヲ足シテ一一以上ノ數トナル寄算

- 一一、基数ニ八、九ヲ足シテ一一以上ノ數トナル寄算
- 一二、一一以上ノ數ヨリ二、三ヲ引キテ基数ノ殘ル引算
- 一三、一一以上ノ數ヨリ四、五ヲ引キテ基数ノ殘ル引算
- 一四、一一以上ノ數ヨリ六、七ヲ引キテ基数ノ殘ル引算
- 一五、一一以上ノ數ヨリ八、九ヲ引キテ基数ノ殘ル引算
- 一六、一一以上ノ數ヲ引クコト
- 一七、二〇ノ唱ヘ方、書キ方ト計算
- 一八、復習

第三學期 加減乗除

- 一、一〇〇マデノ數ノ唱ヘ方
- 二、一〇〇マデノ數ノ書キ方
- 三、數ヲ順ニ又ハ逆ニ數フルコト
- 四、簡易ナル計算
- 五、二倍スルコト
- 六、三倍、四倍スルコト
- 七、幾倍ナルカラヲ求ムルコト
- 八、等分スルコト

九、復習

第二學年 每週五時

本學年ニ於テハ一〇〇〇以下ノ數ニ就キテ命數法ヲ了解セシメ且一〇〇以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル暗算ヲ課シ就中
基數トノ掛算及ビ其ノ逆タル割算ニ習熟セシメ以テ乗除ノ基礎ヲ確立セムコトヲ期スベシ

第一學期 加法減法

一、前學年ノ復習

二、基數ヲ足スコト一（繰上リノナキ場合）

三、基數ヲ引クコト一（繰下リノナキ場合）

四、基數ヲ足スコト二（丁度何十トナル場合）

附 一〇〇錢ニ一圓

五、基數ヲ引クコト二（何十トイフ數ヨリ引ク場合）

六、基數ヲ足スコト三（十進スル場合）

七、基數ヲ引クコト三（一ノ位ヨリ引キ得ザル場合）

八、二位數ヲ足スコト一（簡易ナル場合）

附 一メートルニ一〇〇センチメートル

九、二位數ヲ引クコト三（簡易ナル場合）

一〇、二位數ヲ足スコト二（繰上リノナキ場合）

一一、二位數ヲ引クコト二（繰下リノナキ場合）

一二、二位數ヲ足スコト三（丁度何十トナル場合）

附 一日ニ二四時

一三、二位數ヲ引クコト三（何十トイフ數ヨリ引ク場合）

一四、二位數ヲ足スコト四（十進スル場合）

一五、二位數ヲ引クコト四（一ノ位ヨリ引得ザル場合）

一六、一〇〇〇マデノ數ノ唱ヘ方

一七、一〇〇〇マデノ數ノ書キ方

一八、數ヲ一〇ツツ順ニ又ハ逆ニ數フルコト

一九、數ヲ一ツツ順ニ又ハ逆ニ數フルコト

二〇、簡易ナル計算

二一、復習

第二學期 乘法

二二、掛算ノ九九

二三、掛算ノ九九

附 七日ニ一週、一時ニ六〇分

三四、掛算ノ九九

- 四、五ノ掛算ノ九九
- 五、六ノ掛算ノ九九
- 六、七ノ掛算ノ九九
- 七、八ノ掛算ノ九九
- 八、九ノ掛算ノ九九
- 九、一ノ掛算ノ九九
- 一〇、一〇倍、一〇〇倍スルコト

附 一センチメートル 一〇ミリメートル

一〇〇〇ミリメートル 一メートル

- 一一、何十又ハ何百トイフ數ヲ二倍、三倍スルコト
- 一二、何十又ハ何百トイフ數ヲ四倍、五倍スルコト
- 一三、何十トイフ數ヲ六倍、七倍スルコト
- 一四、何十トイフ數ヲ八倍、九倍スルコト
- 一五、二位數ニ基數ヲ掛ケルコト
- 一六、各桁ノ數ノ積ガ九以下ノ數トナル掛算
- 一七、復習

第三學期 除法

- 一、二、三ノ割算
- 二、四、五ノ割算
- 三、六、七ノ割算
- 四、八、九ノ割算
- 五、一、一〇、一〇〇ノ割算
- 六、二、三、四、五ニテ割リテ餘リアル割算
- 七、六、七ニテ割リテ餘リアル割算
- 八、八、九ニテ割リテ餘リアル割算
- 九、基數ニテ割リ商ガ何十又ハ何百トイフ數トナル割算
- 一〇、二位數ヲ基數ニテ割ルコト
- 一一、各桁ノ數ガ別別ニ割切ルル割算
- 一二、復習

第三學年 毎週五時

本學年ニ於テハ一〇〇〇〇未滿ノ數ニ就キテ筆算ノ加減乗除ヲ授ケ之ニ習熟セシムルコトヲ主眼トシテ而シテ加法及
ビ減法ハ第一學期ニ、乘法及法一位ノ除法ハ第二學期ニ、法二位、三位ノ除法ハ第三學期ニ配當セリ

第二學期 加法減法

一、前學年ノ復習

二、唱へ方、書キ方（一〇〇〇〇未滿ノ數）

三、暗算（一〇〇〇〇未滿ノ數ノ簡易ナル加減乗除）

四、加法一（各桁繰上ラヌ場合）

附 一圓 \parallel 一〇錢ノ一〇倍 \parallel 一〇〇錢ノ復習

一錢 \parallel 一〇厘

五、加法二（二桁繰上ル場合）

附 一メートル \parallel 一〇〇センチメートル

一センチメートル \parallel 一〇ミリメートルノ復習

六、加法三（二桁以上繰上ル場合）

附 一リットル \parallel 一〇デシリットル

七、應用問題一（加法ニ關スル問題）

八、減法一（各桁別別ニ引キ得ル場合）

附 一キログラム \parallel 一〇〇〇グラム

九、減法二（二桁引キ得ヌモノアル場合）

一〇、減法三（二桁以上引キ得ヌモノアル場合）

一一、減法四（或ル桁ヨリ一ヲ借り來ラントスルニ其ノ桁ニ〇アル場合）

一二、應用問題二（減法ニ關スル問題）

一三、復習（加減ニ關スル復習）

一四、應用問題三（加減ニ關スル問題）

第二學期 乗法除法

一、暗算（掛算九九ノ復習、〇ニ關スル掛算ノ補習）

二、乘法一（基數ヲ掛ケ各桁繰上ラヌ場合）

三、乘法二（同一桁繰上ル場合）

附 一ダース \parallel 一二

四、乘法三（同一桁以上繰上ル場合）

附 一日 \parallel 二四時 一時 \parallel 六〇分

一週 \parallel 七日ノ復習 一年 \parallel 一二月

五、應用問題四（乘數ガ基數ナル乘法ノ問題）

六、乘法四（缺位ナキ二位數ヲ掛ケル場合）

七、乘法五（缺位ナキ三位數ヲ掛ケル場合）

附 一キロメートル \parallel 一〇〇〇メートル

八、乘法六（缺位アル二位數、三位數ヲ掛ケル場合）

九、乘法七（被乘數ガ基數ナル場合）

一〇、應用問題五（乘法ニ關スル問題）

- 一一、復習(加減乗ニ關スル復習)
- 一二、應用問題六(加減乗ニ關スル問題)
- 一三、暗算(法商共ニ基數ナル除法ノ復習、○ヲ割ルコトノ補習)
- 一四、除法一(基數ニテ割り各桁割り切ルル場合)
- 一五、除法二(同一桁ダケ割り切り得ヌ場合)
- 一六、除法三(同一桁以上割り切り得ヌ場合)
- 一七、應用問題七(法ガ基數ナル除法ノ問題)

第三學期 乘法除法

- 一、暗算(二位數及ヒ簡易ナル三位數ニ基數ヲ掛ケルコト及ビ其ノ逆タル割算ノ練習)
- 二、除法四(二位數ニテ割り商ガ基數ナル場合)
- 三、除法五(同商ガ二位以上ノ數ナル場合)
- 四、除法六(同商ニ〇アル場合)
- 五、除法七(法ガ三位數ナル場合)
- 六、應用問題八(除法ニ關スル問題)
- 七、復習(加減乗除ニ關スル復習)
- 八、應用問題九(加減乗除ニ關スル問題)

補習科第一學年 每週四時

本學年ニ於テハ一億未滿ノ整數ニ就キテ筆算ノ加減乗除ヲ補習シ更ニ小數ノ計算ノ簡易ナルモノヲ授ケ之ニ習熟セシムルコトヲ主眼トス而シテ第一學期ニ整數ヲ、第二學期ニ小數ヲ配當シ第三學期ニ於テハ諸等數ノ計算ヲ主トシテ整數小數ノ計算ヲ行ハシムルコトトセリ

第一學期 整數

- 一、復習(加減乗除ノ計算)
- 二、唱へ方、書キ方(一億未滿ノ數)
- 三、暗算(一億未滿ノ數ノ簡易ナル加減乗除)
- 四、加法(一億未滿ノ數ノ寄算)
- 五、減法(一億未滿ノ數ノ引算)
- 六、應用問題一(加減ニ關スル問題)
- 七、復習(加減ニ關スル復習)

附 括弧ノ用法、加減ニ關スル式題ノ解法

- 八、乘法(一億未滿ノ數ノ掛算)
- 九、除法(一億未滿ノ數ノ割算)
- 一〇、應用問題二(乗除ニ關スル問題)
- 一一、復習(加減乗除ニ關スル復習)

附 一ヘクターール一〇〇アール

乗除ニ關スル式題ノ解法

一一、應用問題三(加減乗除ニ關スル問題)

第二學期 小數

一、唱へ方、書キ方(小數)

二、暗算(小數ノ加減乗除)

三、長サ(基本單位一メートル)

附 一デシメートル \parallel 〇・一メートル

四、面積(基本單位一平方メートル)

五、體積(基本單位一立方メートル)

附 一ヘクトリットル \parallel 一〇〇リットル

一キロリットル \parallel 一〇〇〇リットル

六、目方(基本單位一キログラム)

附 一トン \parallel 一〇〇〇キログラム

七、加法(小數又ハ帶小數ノ寄算)

八、減法(小數又ハ帶小數ノ引算)

九、應用問題四(加減ニ關スル問題)

一〇、乘法(小數又ハ帶小數ニ關スル問題、小數又ハ帶小數ヲ掛ケル掛算)

- 一一、除法(小數又ハ帶小數ヲ整數ニテ割ル割算)
- 一二、應用問題五(乗除ニ關スル問題)
- 一三、應用問題六(主トシテ長サ、面積、體積及ビ目方ニ關スル問題)

第三學期 整數小數

一、金 高

附 貨幣ニ關スルコト

二、時間

附 曆日、曆年ニ關スルコト

三、角 度

附 方位ニ關スルコト

四、尺貫法度量衡一(長サ)

五、同 二(面積)

六、同 三(體積)

七、同 四(目方)

八、復習(整數、小數及ビ帶小數ニ關スル復習)

九、應用問題八(整數、小數及ビ帶小數ニ關スル問題)

附 一海里 \parallel 一八五二メートル

補習科第二學年 每週四時

本學年ニ於テハ分數及ビ歩合算ノ簡易ナルモノニ就キテ授ケ其ノ問題ノ解法ニ習熟セシムルコトヲ主眼トシ併セテ是マデ授ケタル事項ニ就キテ復習セシム而シテ分數ヲ第一學期ニ、歩合算ヲ第二期ニ、復習ヲ第三學期ニ配當スルコトトセリ

第一學期 分數

- 一、意義
- 二、暗算(分數ノ意義ニ依ル計算)
- 三、種類
- 四、倍數、約數
- 五、約分
- 六、形ヲ變ヘルコト
- 七、加法一(同分母ノ場合)
- 八、減法一(同分母ノ場合)
- 九、通分
- 一〇、加法二(異分母ノ場合)
- 一一、減法二(異分母ノ場合)
- 一二、應用問題一(加減ニ關スル問題)

- 一三、乘法一(分數ニ整數ヲ掛ケル場合)
- 一四、除法一(分數ヲ整數ニテ割ル場合)
- 一五、乘法二(整數又ハ分數ニ分數ヲ掛ケル場合)
- 一六、除法二(整數又ハ分數ヲ分數ニテ割ル場合)
- 一七、應用問題二(乗除ニ關スル問題)
- 一八、小數ヲ分數ニ直スコト
- 一九、分數ヲ小數ニ直スコト
- 二〇、復習(倍數、約數及ビ分數ニ關スル計算ノ復習)
- 二一、應用問題三(加減乗除ニ關スル問題)

第二學期 歩合算

- 一、比
- 二、比ニ關スル問題一(正比例)
- 三、同 二(反比例)
- 四、同 三(比例配分)
- 五、歩合
- 六、元高歩合高
- 七、應用問題四(歩合ニ關スル問題)

八、損益

九、利息

一〇、應用問題五(各種ノ問題)

第三學期 復習

- 一、整數小數(加減乗除ノ復習)
- 二、應用問題六(整數小數ノ加減乗除ニ關スル問題)
- 三、應用問題七(長サ、面積、體積及ビ目方ニ關スル問題)
- 四、分數(加減乗除ノ復習)
- 五、應用問題八(分數ノ加減乗除ニ關スル問題)
- 六、應用問題九(歩合ニ關スル問題)
- 七、應用問題一〇(各種ノ問題)

昭和四年一月十五日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二號を以て左の如く公學校地理科教授要目が定められた。

公學校地理科教授要目左ノ通定ム

公學校地理科教授要目

本要目ニ於テ各教授事項ニ時間ヲ配當セルハ之ニ依リテ教授ノ深度ヲ知ラシメムガ爲ナリ然レドモ實際ノ教授ニ當

リテハ之ニ斟酌ヲ加ヘ兒童ノ能力及其ノ他ノ事情ニ適應セシメムコトヲ努ムベシ

補習科第一學年

第一學期 教授豫定數二十時

- 一、郷土(地理科ノ基礎觀念ト讀圖能力ノ養成)(五時間)
 - 1 位置、地勢、産業
 - 2 交通、都邑
 - 3 郷土ノ歴史及ビ傳説
 - 二、管内(郷土ノ續キ)(三時間)
 - 1 區分、地勢、産業
 - 2 交通、都邑
 - 3 主要ナル歴史的事項
 - 三、他管内(十時間)
 - 1 管内ニ準ズ(所要時間ハ一管内ニ付九二時間)
 - 四、南洋群島ノ總説(二時間)
 - 1 以上ノ復習總括
 - 2 南洋群島ニ於ケル行政ノ一斑
- 第二學期 教授豫定數十六時

一、日本(四時間)

- 1、領土ト其ノ面積
- 2、地勢、氣候、産業、交通ノ概要
- 3、國民ノ種別ト其ノ數
- 4、行政區劃ノ概要ト地方區劃

二、關東地方(六時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

3、明治神宮(明治天皇ノ御聖徳)

4、伊豆七島及小笠原諸島

三、奥羽地方(二時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

四、中部地方(四時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

第三學期 教授豫定數十時

一、近畿地方(六時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

3、皇大神宮(天照大神ノ御神徳)

4、神武天皇ト日本建國

二、中國地方(二時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

三、四國地方(二時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑

補習科第二學年

第一學期 教授豫定數二十時

一、九州地方(三時間)

- 1、地勢、産業
- 2、交通、都邑
- 3、元寇ト日本海々戰

第三編 新領土其他に於ける教育

4、琉球列島

二、北海道地方(二時間)

1、地勢、産業

2、交通、都邑

3、千島列島

三、樺太地方(二時間)

1、地勢、住民、産業

2、都邑、交通

3、明治三十七八年戦役

四、臺灣地方(三時間)

1、地勢、産業

2、交通、住民

3、都邑、澎湖諸島

4、明治二十七八年戦役

五、朝鮮地方(四時間)

1、地勢、産業

2、交通

3、住民、都邑

4、日韓併合

六、關東州(二時間)

1、區域、住民

2、地勢、産業、都邑

3、租借地(東洋ノ平和)

七、日本ノ總説(四時間)

1、山系ト火山脈

2、河川、平野、海岸

3、各種ノ産業

4、交通(特ニ南洋群島トノ交通)

第二學期 教授豫定數十六時

一、世界(一時間)

1、概説

二、アジヤ

1、位置、地勢、産業、交通

2、滿洲、シベリヤ

第六章 南洋群島の教育

第三編 新領土其他に於ける教育

- 3、支那本部、孔子
 - 4、印度、釋迦
 - 5、東南アジア
 - 三、ヨーロッパ洲(四時間)
 - 1、位置、地勢、産業、交通
 - 2、イギリス、フランス、イタリヤ
 - 3、ドイツ、ロシヤ其ノ他
 - 4、キリスト
 - 四、アフリカ洲(二時間)
 - 1、位置、地勢
 - 2、スエズ運河
 - 五、北アメリカ洲(三時間)
 - 1、位置、地勢
 - 2、産業、交通
- 第三學期 教授豫定數十時
- 一、大洋洲(三時間)
 - 1、位置、區分、地勢、産業

- 2、オーストラリヤ
 - 3、太平洋上ノ諸島
 - 4、交通(特ニ南洋群島トノ交通)
- 二、世界ト南洋群島(三時間)
 - 1、ドイツノ占領
 - 2、歐洲ノ大戦
 - 3、日本ノ委任統治
 - 三、地球ノ表面(四時間)
 - 1、地球ノ大サ
 - 2、經度、緯度
 - 3、晝夜
 - 4、陸地ト海洋

昭和四年四月九日勅令第五十七號を以て左の如く南洋廳公學校官制中に改正が行はれた。
南洋廳公學校官制中左ノ通改正ス
第二條中「專任五十四人」ヲ「專任五十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年三月十五日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第八號を以て左の如く公學校理科教授要目が定められた。
公學校理科教授要目左ノ通定ム

公學校理科教授要目

第二學年（毎週一時）

本學年ニ於テハ學校又ハ其ノ附近ニ於ケル天然物及自然現象ニ就キ專ラ觀察ヲ爲サシメ基礎知識ヲ授クルト共ニ觀察力ノ養成ニカムベシ

本學年ノ教材ハ土地ノ情況ニ應ジテ成ルベク觀察ノ容易ナルモノヲ選ビ適宜變更シテ教授スルヲ妨ゲズ

教授時數ハ一學年間ヲ約四十六時間ト豫定シ其ノ中ニテ兒童ヲ學校外ニ引率シテ實地ニ觀察セシムル爲及ビ復習其ノ他ノ爲ニ教授ヲ進行シ得ザル時間ヲ約十一時間ト見積リ殘レル三十五時間ヲ以テ教授ヲ進行スルモノトシ第一學期ニハ十六時間、第二學期ニハ十二時間、第三學期ニハ七時間ニ相當スル教材ヲ配當シ各教材ノ題下ニ其ノ教授時數ヲ附記セリサレド此ノ時數ハ大體ノ標準ヲ示スニ止マルモノニシテ必ずシモ之ニ據ルヲ要セズ

第一學期

- 一、花のいろいろ (二時間)
- 二、くだもの (二時間)
- 三、農園の作物 (二時間)

- 四、種子 (二時間)
- 五、いろいろの芽 (二時間)
- 六、葉のさまざま (二時間)
- 七、筍より親竹に (二時間)
- 八、蜘蛛の巣 (二時間)
- 九、あり (二時間)
- 一〇、にわとり (二時間)
- 一一、犬 (二時間)
- 一二、山羊 (二時間)

第二學期

- 一、ねずみとねこ (二時間)
- 二、蝶 (二時間)
- 三、魚のいろいろ (二時間)
- 四、貝のいろいろ (二時間)
- 五、ぼおふりより蚊へ (二時間)
- 六、石のいろいろ (二時間)
- 七、燃ゆる物 (二時間)

八、雲とスコール (二時間)

九、にじ (二時間)

一〇、かみなり (二時間)

第三學期

一、太陽 (二時間)

二、月 (二時間)

三、星 (二時間)

四、海 (二時間)

五、船と港 (二時間)

六、私どものからだ (二時間)

第三學年 (毎週二時)

本學年ニ於テハ主トシテ觀察實驗ニ基キ極メテ平易ニ理科ニ關スル知識ノ一班ヲ得シメムコトヲ努ムベシ又日常ニ於ケル衛生上ノ注意ハ特ニ實行シ易キ事項ヲ選ビテ教授スベシ

本要目ノ教材中土地ノ情況ニ依リ適切ナラザルモノハ類似ノ教材ヲ選ビ季節ニ合セザルモノハ順序ヲ變更シテ教授スルヲ妨ゲズ

教授時數ハ一學年間ヲ約九十二時間ト豫定シ其ノ中ニテ兒童ヲ學校外ニ引率シテ實地ニ觀察セシムル爲メ及ビ復習其ノ他ノ爲メニ教授ヲ進行シ得ザル時間ヲ約二十四時間ト見積リ残レル六十八時間ヲ以テ教授ヲ進行スルモノトシ第一

學期ニハ二十八時間、第二學期ニハ二十四時間、第三學期ニハ十六時間ニ相當スル教材ヲ配當シ各教材ノ題下ニ其ノ教授時間ヲ附記セリサレド此ノ時間ハ大體ノ標準ヲ示スニ止マルモノニシテ必ずシモ之ニ據ルヲ要セズ

第一學期

一、ぶつそうげ (二時間)

二、かぼちや (二時間)

三、さといも (二時間)

四、カツサバ (二時間)

五、まめ (二時間)

六、さとうきび (二時間)

七、あさがお (二時間)

八、なす (二時間)

九、うきくさ (二時間)

一〇、木麻黄 (一名小笠原松) (二時間)

一一、バナナ (二時間)

一二、椰子 (二時間)

一三、蝶 (二時間)

一四、ほたる (二時間)

- 一五、とんぼ (一時間)
 - 一六、こおろぎ (二時間)
 - 一七、あり (二時間)
 - 一八、かえる (二時間)
 - 一九、空氣 (二時間)
 - 二〇、水 (二時間)
 - 二一、泉、井、川 (二時間)
 - 二二、水蒸氣、氷 (二時間)
- 第二學期
- 一、パパヤ (一時間)
 - 二、たこの木 (二時間)
 - 三、パインアップル (二時間)
 - 四、うつぼかすら (二時間)
 - 五、たばこ (二時間)
 - 六、にわとり (二時間)
 - 七、はと (二時間)
 - 八、牛 (二時間)

- 九、うに、なまこ (二時間)
 - 一〇、貝類 (二時間)
 - 一一、えび、かに (二時間)
 - 一二、石炭 (二時間)
 - 一三、鐵 (二時間)
 - 一四、物の重さ (二時間)
 - 一五、太陽、月 (二時間)
 - 一六、光 (二時間)
 - 一七、熱 (二時間)
- 第三學期
- 一、土と岩石 (二時間)
 - 二、厝 (二時間)
 - 三、火 (二時間)
 - 四、酸素 (二時間)
 - 五、炭酸ガス (二時間)
 - 六、衣服 (二時間)
 - 七、食物 (二時間)

- 八、住居 (二時間)
- 九、衛生 (二時間)

補習科第一學年 (每週二時)

本學年ニ於テハ稍々進ミタル程度ニ於テ教授スベキモ兒童ノ理會力ヲ超ユルコトナク且ツ成ルベク利用方面ニ重キヲ措キテ教授スベシ

教材ノ變更及ビ教授時數ノ配當ニ就キテハ第三學年ニ同ジ

第一學期

- 一、竹 (一時間)
- 二、ヤム芋 (一時間)
- 三、タロー芋 (一時間)
- 四、レモングラス (一時間)
- 五、稻 (一時間)
- 六、時計草 (一時間)
- 七、カボツク (一時間)
- 八、ゴムの木 (一時間)
- 九、榕樹 (一時間)
- 一〇、マンゴ (一時間)

- 一一、みかん (一時間)
- 一二、海藻 (二時間)
- 一三、はち (一時間)
- 一四、せみ (一時間)
- 一五、蠅 (二時間)
- 一六、蚊 (二時間)
- 一七、あひる (一時間)
- 一八、みつすい(俗稱紅雀) (一時間)
- 一九、ねずみ (一時間)
- 二〇、ばら (二時間)
- 二一、かつを (一時間)
- 二二、露、雲、雨 (二時間)
- 二三、風 (二時間)

第二學期

- 一、マニラ麻 (一時間)
- 二、サイザル (一時間)
- 三、鐵木 (一時間)

第三編 新領土其他に於ける教育

- 四、たまな (一時間)
- 五、マングロープ (二時間)
- 六、へび (二時間)
- 七、馬 (二時間)
- 八、豚 (二時間)
- 九、こもり (二時間)
- 一〇、海 (三時間)
- 一一、流水のはたらき (二時間)
- 一二、土 (二時間)
- 一三、食鹽 (二時間)
- 一四、水素 (二時間)
- 一五、炭素 (二時間)
- 一六、アルコール (二時間)
- 一七、錫、鉛、亜鉛、アルミニウム (二時間)
- 一八、銅 (二時間)
- 一九、金、銀 (二時間)
- 二〇、水晶 (二時間)

第三學期

- 一、地震 (一時間)
- 二、重力 (二時間)
- 三、挺子 (二時間)
- 四、秤 (二時間)
- 五、慣性 (二時間)
- 六、摩擦 (二時間)
- 七、振子と時計 (二時間)
- 八、ボンブ (二時間)
- 九、四季と晝夜の長短 (二時間)

補習科第二學年 (毎週二時)

本學年ニ於テハ前學年ト同一ノ方針ニ依リ教授スベク中ニモ人身生理衛生ノ初歩ハ保健上特ニ適切ナル事項ヲ選ビテ教授スベシ

教材ノ變更及ビ教授時數ノ配當ニ就キテハ第三學年ニ同ジ

第一學期

- 一、しだ (二時間)
- 二、こけ (二時間)

- 三、きのこ (一時間)
- 四、パンの木 (一時間)
- 五、クロトン (一時間)
- 六、種子の發芽 (一時間)
- 七、種子の散布 (一時間)
- 八、蜘蛛 (一時間)
- 九、みみず (一時間)
- 一〇、つばめ (一時間)
- 一一、かめ (一時間)
- 一二、いか、たこ (一時間)
- 一三、くらげ、いそぎんちやく、かいめん (一時間)
- 一四、さんご (一時間)
- 一五、さんご礁 (一時間)
- 一六、鹽酸 (一時間)
- 一七、硫酸 (一時間)
- 一八、硝酸 (一時間)
- 一九、苛性ソーダ (一時間)

- 二〇、炭酸ソーダ (一時間)
- 二一、石灰 (一時間)
- 二二、アンモニヤ (一時間)
- 二三、火山、火成岩 (三時間)
- 二四、水成岩、地層 (三時間)

第二學期

- 一、星 (一時間)
- 二、日食 (一時間)
- 三、月食 (一時間)
- 四、氣温 (一時間)
- 五、低氣壓 (一時間)
- 六、熱の移り方 (一時間)
- 七、熱と氣體の壓力 (一時間)
- 八、光の反射 (一時間)
- 九、平面鏡 (一時間)
- 一〇、光の屈折 (一時間)
- 一一、レンズ (二時間)

- 一一、色 (二時間)
- 一二、音 (二時間)
- 一三、磁石 (二時間)
- 一四、電氣、電流 (三時間)
- 一五、電燈 (二時間)
- 一六、電信機、電鈴 (二時間)
- 一七、電話機 (二時間)
- 一八、電話機 (二時間)

第三學期

- 一、石油 (二時間)
- 二、磷礦 (二時間)
- 三、人體の組立 (二時間)
- 四、食物 (三時間)
- 五、消化 (二時間)
- 六、血液の循環 (二時間)
- 七、呼吸 (二時間)
- 八、尿と汗 (二時間)
- 九、腦、脊髓、神經及感覺器 (二時間)

一〇、保健

(二時間)

昭和五年四月五日勅令第七十一號を以て左の如く南洋廳公學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳公學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任五十五人」ヲ「訓導 專任五十六人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年四月トラツク諸島月曜日に公學校が設置せられた。

昭和五年八月八日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第二十八號を以て左の如く公學校農業科教授要目が定められた。

公學校農業科教授要目左ノ通定ム

公學校農業科教授要目

本要目ハ農事ノミヲ授クルモノトシテ立案セリ故ニ公學校規則第十七條第二項ニ依リ水産ノミヲ授ケ又ハ農事、水産ヲ併セ課スル場合ニハ別ニ立案ノ上教授スベシ

耕種農業ノ教授ハ特ニ實習ニ重キヲ措ク必要アルヲ以テ本要目中ニハ各種ノ作物ヲ列舉セリ然レドモ栽培ニ關スル

一般概念ヲ授クルハ更ニ重要ナルヲ以テ個々實習ノ際教師ハ常ニ右概念ヲ兒童ニ理會セシメムコトヲ努ムベシ
本要目中ニハ同一教材ニシテ本科ト補習科トニ重出スルモノ少カラズ教授者ハ兒童ノ程度ヲ考慮シ夫々適當ニ教授
スベシ

本要目ノ教材中土地ノ情況ニ適セザルモノアルトキハ之ニ代ルベキ教材ヲ選ビ又實習其ノ他ノ都合ニ依リ順序ヲ變
更シテ教授スルヲ妨ゲズ

農業ノ教材ハ一時ニ其ノ教授ヲ完結シ得ザルモノ多シ教授者ハ隨時必要ニ應ジ之ガ部分的取扱ヲナスベシ

各教材ノ題下ニ附記セル教授時間數ハ實習ノ時間ヲ含メ大體ノ標準ヲ示シタルモノニシテ必ズシモ之ニ據ルヲ要セ
ズ

第二學年 (每週一時)

第一學期

- 一、カツサバ (三時間)
 - 二、整地と農具 (五時間)
 - 三、種子まき (三時間)
 - 四、大根 (三時間)
 - 五、間引 (二時間)
 - 六、草取 (二時間)
- 第二學期

- 一、ヤム薯 (三時間)
- 二、玉蜀黍 (三時間)
- 三、豆類 (三時間)
- 四、こやし (三時間)
- 五、こやしの施方 (二時間)

第三學期

- 一、鶏の飼方 (三時間)
- 二、作物の取入 (二時間)
- 三、農業 (三時間)

第三學年 (每週二時)

第一學期

- 一、作物 (三時間)
- 二、甘藷 (四時間)
- 三、苳類 (五時間)
- 四、苗床 (四時間)
- 五、葱 (四時間)
- 六、茄 (五時間)

- 七、甘蔗 (四時間)
- 八、作物の病虫害 (四時間)
- 九、土壤と水利 (四時間)

第二學期

- 一、瓜類 (五時間)
- 二、タロ芋 (四時間)
- 三、バナナ (四時間)
- 四、豚の飼方 (五時間)
- 五、森林 (三時間)
- 六、椰子 (五時間)
- 七、植樹及び手入 (三時間)

第三學期

- 一、里芋 (五時間)
- 二、パイナップル (四時間)
- 三、花卉 (五時間)
- 四、農業の改良 (三時間)

補習科第一學年 (每週四時)

第一學期

- 一、農業 (四時間)
- 二、作物 (四時間)
- 三、天氣 (五時間)
- 四、稻 (六時間)
- 五、灌漑及び用水 (四時間)
- 六、選種 (五時間)
- 七、整地及び其の用具 (六時間)
- 八、白菜と體菜 (六時間)
- 九、日光 (三時間)
- 一〇、植方の疏密 (四時間)
- 一一、雜草と除草 (六時間)
- 一二、南瓜 (六時間)
- 一三、甘蔗 (六時間)
- 一四、害虫の驅除 (六時間)
- 一五、益虫及び益鳥 (五時間)

第二學期

第六章 南洋群島の教育

- 一、苗床 (五時間)
 - 二、茄 (六時間)
 - 三、葱 (五時間)
 - 四、甘藷 (六時間)
 - 五、養鶏 (五時間)
 - 六、鶏卵の孵化及び育雛 (六時間)
 - 七、山羊 (五時間)
 - 八、煙草 (五時間)
 - 九、豇豆と鵲豆 (五時間)
 - 一〇、播種の深淺 (三時間)
 - 一一、施肥 (四時間)
 - 一二、速效肥料と遲效肥料 (五時間)
- 第三學期
- 一、果物 (五時間)
 - 二、果樹 (六時間)
 - 三、果樹の剪定及び整枝 (五時間)
 - 四、果樹の施肥及び手入れ (五時間)

- 五、果樹の繁殖 (六時間)
 - 六、果樹の移植 (四時間)
 - 七、品種の改良 (五時間)
- 補習科第二學年 (每週四時)

- 第一學期
- 一、農學 (四時間)
 - 二、胡瓜と西瓜 (六時間)
 - 三、落花生 (六時間)
 - 四、カツサバ (五時間)
 - 五、澱粉製造 (四時間)
 - 六、作物の病害 (六時間)
 - 七、椰子 (六時間)
 - 八、コブラの製法 (四時間)
 - 九、森林 (五時間)
 - 一〇、植樹及び手入れ (四時間)
 - 一一、養蜂 (六時間)
 - 一二、養豚 (六時間)

一三、牛 (六時間)

一四、家畜の飼養 (四時間)

一五、家畜の管理 (四時間)

第二學期

一六、大根 (六時間)

一七、土壤と土層 (四時間)

一八、土壤の由來 (四時間)

一九、腐植の生成 (四時間)

二〇、土壤の成分 (四時間)

二一、肥料の成分 (五時間)

二二、土壤の吸收力 (五時間)

二三、連作と輪作 (四時間)

二四、土壤の改良 (六時間)

二五、手間肥 (六時間)

二六、金肥 (六時間)

二七、肥料の施用 (六時間)

第三學期

一、工藝作物 (八時間)

二、庭園と花壇 (八時間)

三、農業の要素 (四時間)

四、農業の經營 (四時間)

五、農家の共同 (四時間)

六、農業の助長 (四時間)

七、農業と社會 (四時間)

昭和六年一月十五日庶務課、支廳、公學校に對する南洋廳訓令第一號を以て左の如く公學校手工科教授要目が定められた。

公學校手工科教授要目左ノ通定ム

公學校手工科教授要目

土地ノ情況ニ依リ材料ヲ得難キ場合又ハ其ノ他ノ事情ニ依リ本要目ニ據リ難キ場合ハ適宜他ノ教材ヲ充テ教授スベシ

本要目ニ掲ゲタル外補充教材トシテ豆細工、蜀黍稗細工其ノ他適當ナルモノヲ教授スルコトヲ得
各教材ノ題下ニ附記セル教授時間數ハ大體ノ標準ヲ示シタルモノニシテ必ズシモ之ニ據ルヲ要セス

第一學年 (每週一時)

第一學期

- 一、折紙 紙の折方 (二時間)
- 二、同 家 (二時間)
- 三、同 豚 (二時間)
- 四、同 オルガン (二時間)
- 五、同 飛行機 (二時間)
- 六、同 帆掛船 (二時間)
- 七、同 風車 (二時間)
- 八、同 龜 (二時間)
- 九、同 紙鐵砲 (二時間)
- 一〇、切抜 鉄の使用法—紙帯 (二時間)
- 一一、同 鉄の使用練習—暖簾 (二時間)
- 一二、同 紙鏈 (二時間)
- 一三、同 梯子 (二時間)
- 一四、同 四角排べ (二時間)
- 一五、同 三角排べ (二時間)
- 一六、同 木の葉 (二時間)

一七、同

第二學期

- 一、切抜 自由選題 (二時間)
- 二、同 尺度使用法 (二時間)
- 三、同 尺度使用練習—正四角形 (二時間)
- 四、同 紋形四ツ目 (二時間)
- 五、同 吹流 (二時間)
- 六、同 犬 (二時間)
- 七、同 自由選題 (二時間)
- 八、同 穂と卵 (二時間)
- 九、同 供餅 (二時間)
- 一〇、同 粘土鏈 (二時間)
- 一一、同 自由選題 (二時間)
- 一二、同 蠟燭 (二時間)
- 自由選題 (二時間)

第三學期

- 一、粘土細工 皿 (二時間)
- 二、同 角砂糖 (二時間)

第三編 新領土其他に於ける教育

- 三、同 橋 (二時間)
- 四、同 文鎮 (二時間)
- 五、同 鐘 (二時間)
- 六、同 煉瓦と煉瓦積 (二時間)
- 七、同 自由選題 (二時間)

第二學年 (毎週一時)

第一學期

- 一、切抜 長方形 (二時間)
- 二、同 同(寸法ヲ定ム) (二時間)
- 三、同 方形(寸法ヲ定ム) (二時間)
- 四、同 色紙袋 (二時間)
- 五、同 樹木 (二時間)
- 六、同 風車 (二時間)
- 七、同 風景 (二時間)
- 八、同 自由選題 (二時間)
- 九、粘土細工 葉形の楊枝皿 (二時間)
- 一〇、同 ペン皿 (二時間)

- 一一、同 ヲツブ (二時間)
- 一二、同 筆立 (二時間)
- 一三、同 茶碗 (二時間)
- 一四、同 貝殻 (二時間)
- 一五、同 パナナ (二時間)
- 一六、同 自由選題 (二時間)

第二學期

- 一、粘土細工 茄 (二時間)
- 二、同 南瓜 (二時間)
- 三、同 胡 (二時間)
- 四、同 魚 (二時間)
- 五、同 鳥 (二時間)
- 六、同 自由選題 (二時間)
- 七、切抜 小刀の用方と研方 (二時間)
- 八、同 紙の裁方—裁板、裁定規の用方 (二時間)
- 九、同 色の配合標本 (二時間)
- 一〇、同 章花 (二時間)

第六章

南洋群島の教育

第三編 新領土其他に於ける教育

一一、同 自由選題 (二時間)

第三學期

一、厚紙細工 厚紙の切方 (二時間)

二、同 角形の箱 (二時間)

三、同 手提箱 (二時間)

四、同 風景(切抜貼附) (二時間)

五、同 自由選題 (二時間)

第三學年(男) (毎週一時)

第一學期

一、厚紙細工 舞蛇—圓規の用方 (二時間)

二、同 六角コップ (二時間)

三、同 パケツ (二時間)

四、同 自由選題 (三時間)

五、竹細工 菓子箸 (二時間)

六、同 糊笥 (二時間)

七、同 子拭掛 (二時間)

八、同 柄杓 (二時間)

九、同 自由選題 (二時間)

第二學期

一、木工 鉋の用方と研方 (二時間)

二、同 木札—鋸及び直角定規の使用法 (二時間)

三、同 土瓶敷 (二時間)

四、同 自由選題 (二時間)

五、椰子細工 簞 (二時間)

六、同 簞(又ハ簾) (二時間)

七、同 椰子繩 (三時間)

第三學期

一、椰子細工 筆立 (二時間)

二、同 茶托 (二時間)

三、同 楊枝入 (二時間)

四、同 灰落 (二時間)

五、同 自由選題 (二時間)

第三學年(女) (毎週一時)

第一學期

男子第一學期教材ニ同ジ

第二學期

- 一、紙細工 紙撚(小撚) (一時間)
 - 二、同 同(觀世撚) (一時間)
 - 三、同 提帖 (一時間)
 - 四、同 和本綴 (二時間)
 - 五、同 竹掃子 (三時間)
 - 六、島材編物 お手玉 (一時間)
 - 七、同 バスケ (二時間)
 - 八、同 莫蘆 (四時間)
- 第三學期
- 一、編物 紐の編方 (一時間)
 - 二、同 總の造方 (一時間)
 - 三、同 鎖編、小編練習 (二時間)
 - 四、同 圓形花瓶敷 (三時間)
 - 五、同 自由選題 (二時間)

補習科第一學年(男) (每週二時)

第一學期

- 一、粘土細工 彫刻—數瓦 (四時間)
- 二、同 花瓶 (四時間)
- 三、同 動物 (四時間)
- 四、同 自由選題 (六時間)
- 五、厚紙細工 筆入 (三時間)
- 六、同 狀挿 (三時間)
- 七、同 圓筒 (四時間)
- 八、同 文庫 (四時間)
- 九、同 自由選題 (四時間)

第二學期

- 一、粘土細工 植木鉢 (四時間)
- 二、同 アーチ (四時間)
- 三、同 自由選題 (六時間)
- 四、厚紙細工 紙挾 (四時間)
- 五、同 家 (四時間)
- 六、同 自由選題 (六時間)

第六章 南洋群島の教育

第三學期

- 一、木工 門札—平板の正しき削方 (三時間)
- 二、同 製圖につきて (三時間)
- 三、同 置物臺製圖 (二時間)
- 四、同 置物臺製作 (五時間)
- 五、同 自由選題 (五時間)

補習科第一學年(女) (每週二時)

第一學期

男子第一學期教材ニ同シ

第二學期

- 一、編物 長編練習 (二時間)
- 二、同 六角形涎掛 (七時間)
- 三、同 丸形袋物 (七時間)
- 四、同 笹編練習 (二時間)
- 五、同 筵編練習 (二時間)
- 六、同 自由選題 (八時間)

第三學期

- 一、造花 寒椿 (六時間)
- 二、同 梅の折枝 (六時間)
- 三、同 自由選題 (六時間)

補習科第二學年(男) (每週二時)

第一學期

- 一、木工 手箱製圖 (二時間)
- 二、同 手箱製作 (四時間)
- 三、同 本立設計圖 (二時間)
- 四、同 本立製作 (四時間)
- 五、同 自由選題 (六時間)
- 六、椰子細工 印籠 (四時間)
- 七、同 柱掛花瓶 (四時間)
- 八、同 灰落(彫刻附) (六時間)
- 九、同 自由選題 (四時間)

第二學期

- 一、金工 火箸 (二時間)
- 二、同 ビスカン (二時間)

第三編 新領土其他に於ける教育

- 三、同 着燒 (四時間)
- 四、同 龜甲網 (六時間)
- 五、同 漏斗 (四時間)
- 六、同 塵取 (四時間)
- 七、同 自由選題 (六時間)

第三學期

- 一、貝細工 杓子 (二時間)
- 二、同 楊枝入 (四時間)
- 三、龜甲細工 栞 (四時間)
- 四、同 靴篋 (四時間)
- 五、同 自由選題 (四時間)

補習科第二學年(女) (每週二時)

第一學期

- 一、刺繡 臺布の張方 (二時間)
- 二、同 基礎繡 (四時間)
- 三、同 から松 (四時間)
- 四、同 梅花 (四時間)

- 五、同 胡蝶 (四時間)
- 六、同 文字の繡方 (六時間)
- 七、袋物 名刺挾 (六時間)
- 八、同 巾著 (六時間)

第二學期

- 一、袋物及び刺繡 褙口 (六時間)
- 二、同 手提袋 (六時間)
- 三、同 自由選題 (七時間)
- 四、組紙 平組 (三時間)
- 五、同 綾組 (三時間)
- 六、同 紋組 (三時間)

第三學期

- 一、島材編物 卷煙草ケース (八時間)
- 二、同 手提カバン (十時間)

附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年三月二十七日支廳、公學校に對する南洋廳訓令第五號を以て左の如く公學校兒童給與規定中に改正が行はれた。

公學校兒童給與規定中左ノ通改正ス

第七條中「一食七錢ノ割合ニ依リ」ヲ「一食七錢以内ニテ」ニ改ム

附則

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年四月十一日勅令第五十四號を以て左の如く南洋廳公學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳公學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任五十八人」ヲ「訓導 專任五十八人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和六年四月トラツク支廳モートロツク諸島オネオツプ島に公學校が設置せられた。

昭和七年四月一日勅令第五十一號を以て左の如く南洋廳公學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳公學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任五十八人」ヲ「訓導 專任五十九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年九月二十七日勅令第二百六十一號を以て左の如く朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島官立公立小學校長等優遇令が定められた。

朝鮮、臺灣、關東州及南洋群島官立公立小學校長等優遇令

朝鮮公立小學校、朝鮮公立普通學校、臺灣公立小學校、臺灣公立公學校、關東州小學校、南洋廳小學校若ハ南洋廳公學校ノ學校長又ハ關東州公學堂ノ學堂長ニシテ效績アル者ハ特ニ奏仕官ノ待遇ヲ受ケシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ奏仕官ノ待遇ヲ受クル者ノ待遇相當官等ハ高等官五等以下トス

附則

本令ハ昭和七年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年勅令第三百四十二號、朝鮮公立小學校長及朝鮮公立普通學校長優遇令並ニ關東州小學校長及關東州公學堂長優遇令ハ之ヲ廢止ス

第二項 内地人に對する初等普通教育

内地よりの移住者漸次増加するに従ひ兒童に對する教育機關の必要を見るに至つたので、軍政時代大正八年七月一日

南洋群島民政令第五號を以て左の如く南洋群島尋常小學校規則が定められた。

南洋群島尋常小學校規則左ノ通定ム

南洋群島尋常小學校規則

第一條 尋常小學校ハ内地人ノ兒童ヲ教育スル所トス

尋常小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

第二條 尋常小學校ハ司令官ニ於テ必要ト認メタル地ニ之ヲ設置ス特別ノ事情アルトキハ尋常小學校分教場ヲ設クルコトアルヘシ

第三條 尋常小學校ノ修業年限、教科目、教則、教科用圖書及編制、學年、休業日及式日ニ關シテハ特ニ規定スルモノノ外小學校令及文部省令ノ定ムル所ニ依ル但シ同令中市町村及管理者ノ職權ハ民政署長之ヲ行ヒ府縣知事及文部大臣ノ職權ハ司令官之ヲ行フ

第四條 學校長ハ民政署長ノ認可ヲ經テ酷暑休業ノ前後各三十日以内ニ於テ毎週ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得前項ニ依リ教授時數ヲ減シタルトキハ便宜各教科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ

第五條 學年ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第六條 酷暑及年末年始學年末休業日左ノ如シ

一、酷暑休業 八月一日ヨリ同月三十一日迄

二、年末年始休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

三、學年末休業 三月二十六日ヨリ三月三十一日迄

第七條 特別ノ事情ニヨリ前條ノ期日ヲ變更セムトスルトキ又ハ臨時ニ休業セムトスルトキハ學校長ハ事由及之カ爲ニ生スル各教科目、教授ノ補充方法ヲ具シ民政署長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 天災事變其ノ他ノ場合ニ際シ前條ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ行ヒ直ニ之ヲ民政署長ニ報告スヘシ

第九條 前二條ノ場合ニ於テハ民政署長ハ直ニ之ヲ司令官ニ報告スヘシ

第十條 尋常小學校ニ學齡兒童ヲ入學セシメムトスルトキハ其ノ兒童ヲ保護スル者ニ於テ左ノ各號ニ掲クル事項ヲ具シ民政署長ニ願出ツヘシ

一、兒童及保護者ノ氏名、出生年月日、本籍地、現住所

二、兒童入學前ノ經歷

三、保護者ノ職業及兒童トノ關係

第十一條 學校長ハ別記第三號書式ニ依リ入學シタル兒童ノ學籍簿ヲ編製スヘシ學籍簿記載ノ事項ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク加除訂正スヘシ

第十二條 學校長ハ在學兒童ノ出席簿ヲ作り其ノ出席簿ヲ明ニスヘシ

- 第十三條 在學ノ兒童ヲ退學セシムトスルトキハ保護スル者ニ於テ其ノ事由ヲ具シ學校長ニ願出ツヘシ
- 第十四條 學校長ハ傳染病ニ罹リ又ハ其ノ虞アル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得
- 第十五條 學校長ハ在學兒童ニシテ性行不良ノタメ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル者又ハ正當ノ事由ナク引續キ一ヶ月以上缺席シタル者ニ退學ヲ命スルコトヲ得
- 第十六條 尋常小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

一、學校長

一、海軍教員

一、海軍准教員

- 第十七條 學校長ハ海軍教員ヲ以テ之ニ充ツ
- 第十八條 學校長ハ校務ヲ處理シ所屬職員ヲ統督ス
- 第十九條 海軍教員、海軍准教員ハ學校長ノ指揮ヲ承ケ兒童ノ教育ヲ擔任シ庶務ニ従事ス
- 第二十條 尋常小學校兒童ノ授業料ハ當分ノ間之ヲ徴收セス
- 第二十一條 卒業證書、修業證書ハ別記書式ニ依ル

附則

本令ハ大正八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(第一號乃至第三號書式) 略

新規則の實施と共にトラツク島夏島及サイパン島ガラパン村に尋常小學校が設けられた。

大正十年三月文部省令第十三號を以て臨時南洋群島防備隊司令官の設置せる南洋群島尋常小學校兒童並卒業者は、他の學校へ入學轉學の關係に就き明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令に依り設置したる市町村立小學校の兒童及卒業者と同一の取扱を受くること定められた。

大正十年六月にはサイパン島タナバコに尋常小學校の分校、同年八月にはバラオ島に尋常小學校が設立せられた。

南洋廳が置かるることとなつたと同時に大正十一年三月三十一日勅令第百十三號を以て左の如く南洋廳小學校官制が定められ、内地人の子弟即ち國語を常用する兒童に初等普通教育を授くる小學校が官立學校として設けられた。

南洋廳小學校官制

第一條 南洋廳小學校ハ國語ヲ常用スル兒童ニ普通教育ヲ授クル所トス

第二條 小學校ニ左ノ職員ヲ置ク

學校長

訓導 專任四人 判任

第三條 學校長ハ訓導ヲ以テ之ニ充ツ南洋廳支廳長ノ命ヲ承ケ校務ヲ掌理シ部下ノ職員ヲ監督ス

第四條 訓導ハ兒童ノ教育ヲ擔任シ及學校長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第五條 小學校ノ名稱及位置ハ南洋廳長官之ヲ定ム

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

小學校の訓導は純然たる判任官であるから其俸給及等級等のことは一般官吏に關する規程に依るのである。」

大正十一年四月一日南洋廳令第三十一號を以て左の如く南洋廳小學校規則が定められた。

南洋廳小學校規則左ノ通定ム

南洋廳小學校規則

- 第一條 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス
- 第二條 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス
- 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス
- 第三條 尋常高等小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ尋常小學校ノ規定ヲ準用シ高等小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分ニ對シテハ高等小學校ノ規定ヲ準用ス
- 第四條 小學校ノ修業年限、教科目、教則ニ關シテハ特ニ規定スルモノヲ除クノ外小學校令及文部省令ノ定ムル所ニ依ル但シ同令中府縣知事ノ職權ハ南洋廳長官之ヲ行フ
- 第五條 小學校ノ教科用圖書ハ南洋廳長官之ヲ定ム
- 第六條 小學校ニ補習科ヲ置クコトヲ得

補習科ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

- 第七條 各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ別表ニ依ル
- 第八條 高等小學校ノ修業年限ノ延長及小學校ノ教科目ノ加除ハ南洋廳長官之ヲ定ム
- 第九條 各學年ノ課程ノ修了又ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ試験ヲ用ウルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考査シテ之ヲ定ムヘシ

第十條 小學校ノ學級數ハ南洋廳長官之ヲ定ム

第十一條 小學校ニ於テハ各學級ニ訓導一人ヲ置ク特別ノ事情アル場合ニ於テハ囑託教員ヲシテ教授ヲ補助セシムルコトアルヘシ

第十二條 校地、校舍、校具及體操場ハ非常變災ノ場合ノ外小學校ノ教授ニ妨ケナキ限り教育、産業、衛生、慈善等ノ目的ノ爲使用セシムルコトヲ得

第十三條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

學年ヲ別テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ヨリ八月三十一日迄

第二學期 九月一日ヨリ十二月三十一日迄

第三學期 翌年一月一日ヨリ三月三十一日迄

第十四條 毎日ノ教授終始ノ時刻ハ學校長之ヲ定ムヘシ

第十五條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

一 祝日 大祭日

二 日曜日

三 始政記念日

四 第一學期末休業 八月二十二日ヨリ八月三十一日迄

五 年未始休業 十二月二十五日ヨリ翌年一月七日迄

六 學年末休業 三月二十五日ヨリ三月三十一日迄

第十六條 特別ノ事情ニ依リ臨時休業ヲ要スル場合ニ於テハ學校長ハ其ノ事由及之カ爲ニ減スル各教科目教授ノ補充方法ヲ具シ支廳長ノ認可ヲ受クヘシ

天災事變其ノ他急迫ノ場合ニ際シ前項ノ認可ヲ受クル暇ナキトキハ學校長ニ於テ臨時休業ヲ行フコトヲ得其ノ場合ニ於テハ速ニ之ヲ支廳長ニ報告スヘシ

前二項ノ場合ニ於テハ支廳長ハ速ニ之ヲ南洋廳長官ニ報告スヘシ

第十七條 紀元節、天長節祝日及一月一日ニ於テハ職員及兒童ハ小學校ニ參集シ左ノ順序ニ從ヒ儀式ヲ行フヘシ

一 職員及兒童ハ「君カ代」ヲ合唱ス

二 學校長ハ教育ニ關スル勅語ヲ奉讀ス

三 學校長ハ教育ニ關スル勅語ニ基キ聖旨ノ在ル所ヲ誨告ス

四 職員及兒童ハ其ノ祝日ニ相當スル唱歌ヲ合唱ス

第十八條 學年開始迄ニ年齡滿六年ニ達セサル兒童ハ其ノ學年中ハ尋常小學校ニ入學スルコトヲ得ス

第十九條 高等小學校ニ入學スルコトヲ得ル兒童ハ尋常小學校ヲ卒業シタル者又ハ年齡滿十二年以上ニシテ之ト同等以上ノ學力ヲ有スル者タルヘシ

第二十條 學校長ハ家庭又ハ其ノ他ニ於テ修學シタル者ニ對シ父兄又ハ之ニ代ルヘキ者ノ請求ニ依リ試験ノ上相當學年ニ入學セシムルコトヲ得

第二十一條 他ノ小學校ヨリ轉學セムトスル者アルトキハ試験ヲ用キスシテ同一學年ニ入學セシムルコトヲ得

第二十二條 小學校ニ兒童ヲ入學セシムルトスルトキハ其ノ保護者ハ左ノ事項ヲ具シ學校長ニ申出ツヘシ

一 兒童竝ニ保護者ノ氏名、出生年月日、本籍、現住所及族稱

二 兒童入學前ノ經歷

三 保護者ノ職業及兒童トノ關係

第二十三條 學校長ハ傳染病ニ罹リ又ハ其ノ虞アル兒童若ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨ケアリト認メタル兒童ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第二十四條 學校長ハ訓育上必要ト認ムルトキハ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

第二十五條 兒童ヲ退學セシムトスルトキハ其ノ保護者ニ於テ事由ヲ具シ學校長ニ届出ツヘシ

第二十六條 學校長ハ在學兒童ニシテ左ノ各號ニ該當スル者アルトキハ支廳長ノ認可ヲ得テ之ニ退學ヲ命スルコトヲ得

一 性行不良ニシテ改善ノ見込ナシト認メタル者

二 正當ノ事由ナク引續キ一月以上缺席シタル者

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島尋常小學校規則ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際現ニ南洋群島尋常小學校ニ在學スル兒童ハ本令ニ依ル尋常小學校ノ相當學年ニ編入ス

(別表)

日本歴史	算術	國語	修身	教科目	
				年	時數
日本歴史ノ大要	六 乗除ノ加減 十以下ノ數 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方	一三 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方 ノ方、話シ方	二 道德ノ要旨	第一學年	二
				第二學年	二
				第三學年	二
				第四學年	二
				第五學年	二
				第六學年	二

計	裁縫	體操	唱歌	圖畫	理科	地理		
							年	時數
計	裁縫	體操	唱歌	圖畫	理科	地理		
							第一學年	二
							第二學年	二
							第三學年	二
							第四學年	二
							第五學年	二

右の如く軍政時代には尋常小學校のみが設けられたのを改め、今回は尋常小學校及高等小學校を設けることとした。而して小學校の修業年限、教科目、教則に關しては南洋特殊の事情に依り考慮を要するものの外内地の小學校令及同施行規則に準據したのであつた。

大正十一年十二月八日南洋廳告示第十三號を以て左の如く南洋廳尋常小學校の修身、國語、算術、日本歴史、地理、

理科、圖畫の教科用圖書が定められた。

南洋廳尋常小學校修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫教科用圖書左ノ通定ム但シ大正十一年度ニ限り従前ノ教科用圖書ヲ使用スルコトヲ得

教科目	著 者	書 名	種 別	冊 数
修 身	文 部 省	尋常小學校修身書	複式編制學校第一學年乃至第四學年兒童用甲、乙	六冊
國 語	文 部 省	尋常小學校國語讀本	複式編制學校教師用甲、乙	二冊
算 術	文 部 省	尋常小學校算術書	複式編制學校教師用甲、乙	二冊
日本歴史	文 部 省	尋常小學校日本歴史	卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、卷六、卷七、卷八、	十一冊
地 理	文 部 省	尋常小學校地理附圖	卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、卷六、卷七、卷八、	十一冊
理 科	文 部 省	尋常小學校理科書	卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、卷六、卷七、卷八、	十一冊
圖 畫	文 部 省	尋常小學校圖畫書	卷一、卷二、卷三、卷四、卷五、卷六、卷七、卷八、	十一冊

大正十二年八月文部省令第三十三號を以て南洋廳小學校兒童及卒業者は、他の學校へ入學轉學の關係に就き明治三十三年勅令第三百四十四號小學校令に依り設置したる市町村立小學校の兒童及卒業者と同一の取扱を受くるの件が定められた。(第二編 第七章 第二十二款教育上並に就職上の機會均等參照)

大正十三年四月一日左記南洋廳告示第三號が發せられた。

大正十一年南洋廳告示第十三號中「國語」ノ欄左ノ通改正シ大正十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

國 語	著 者	書 名	種 別	冊 数
文 部 省	尋常小學校國語讀本	卷一乃至卷十二		十二冊
文 部 省	尋常小學校國語書キ方手本	第一學年用 第二學年乃至第六學年用各上下		十一冊

大正十三年四月十七日勅令第八十六號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任四人」ヲ「訓導 專任九人」ニ改ム

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年四月サイパン尋常小學校に高等科が併置せられた。

同月又サイパン島ラウラウに於て南洋興發會社が小作人の爲に設けた兒童教育所が官營に移されラウラウ分教場とせられた。

大正十三年五月二十三日南洋廳令第四號を以て左の如く南洋廳小學校規則中に改正が行はれた。
南洋廳小學校規則中左ノ通改正ス

第七條中「各學年」ヲ「尋常小學校各學年」ニ「別表」ヲ「第一號表」ニ改ム

第七條ノ二 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及毎週教授時數ハ第二號表ニ依ル

附則

本令ハ大正十三年四月二十四日ヨリ之ヲ施行ス

第二號表

科目	學年		授時數	第一學年	授時數	第二學年
	第一學年	第二學年				
修身	二	二	二	道德ノ要旨	二	道德ノ要旨
國語	八	八	八	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	八	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方
算術	四	四	四	分數、歩合算、比例(珠算加減乗除)	四	比例(日用簿記)(珠算加減乗除)
日本歴史	二	二	二	日本歴史ノ大要	二	前學年ノ續キ
地理	二	二	二	外國地理ノ大要	二	地理ノ補習

科目	學年		授時數	第一學年	授時數	第二學年
	第一學年	第二學年				
理科	二	二	二	植物、動物、礦物及自然現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	二	自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要
唱歌	一	一	一	單音唱歌(簡易ナル複音唱歌)	一	單音唱歌(簡易ナル複音唱歌)
體操	三	三	三	體操、教練、遊戲	三	體操、教練、遊戲
裁縫	四	四	四	通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方	四	通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方
計	男二 女二	男二 女二	男二 女二	男二 女二	男二 女二	男二 女二

備考

土地ノ情況ニ依リ支廳長ハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ毎週二十九時(必要科目ヲ包含ス)ヲ超エサル範圍内ニ於テ隨意科目若ハ選擇科目トシテ手工、農業、商業、家事、圖畫、英語ノ一科目若ハ數科目ヲ加フルコトヲ得
學校長ハ支廳長ノ認可ヲ得テ酷暑ノ期間六十日以内ニ於テ毎日ノ教授時數ヲ減スルコトヲ得
前項ノ規定ニ依リ教授時數ヲ減スルトキハ學校長ニ於テ便宜各教授科目ノ每週教授時數ヲ斟酌スヘシ
實習ニ關シテハ規定ノ教授時間外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

大正十三年六月一日左記南洋廳告示第四號が發せられた。

南洋廳小學校修身、國語、算術、日本歴史、地理、理科、圖畫、唱歌、農業、商業、家事、英語教科用圖書左ノ通

定メ大正十三年四月二十四日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年南洋廳告示第十三號ハ之ヲ廢止ス

大正十四年九月南洋廳は小學校の設置せられざる地方に於ける内地人兒童の爲公學校に特別學級を設けて教育を爲すの制度を開いた。

大正十五年四月二十七日勅令第八十六號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任九人」ヲ「訓導 專任十一人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十五年四月ヤツブ島及ボナベ島に尋常小學校が設置せられた。

昭和二年四月二十日勅令第九十四號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任十一人」ヲ「訓導 專任十二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年三月二十日南洋廳令第二號を以て左の如く南洋廳小學校規則中に改正が行はれた。

南洋廳小學校規則中左ノ通改正ス

第七條 削除

第七條ノ二 削除

第十四條ノ二 學校長ハ兒童ノ保健上必要ト認メタルトキハ一年ノ中五十日ヲ限り支廳長ノ認可ヲ經テ毎日ノ教授

時數ヲ減スルコトヲ得

支廳長前項ノ認可ヲ爲シタルトキハ其ノ旨直ニ南洋廳長官ニ報告スヘシ

第十七條中「天長節祝日」ヲ「天長節、明治節」ニ改ム

第十八條中「學年開始迄」ヲ「學年開始前迄」ニ改ム

第一號表及第二號表ヲ削ル

附則

本令ハ昭和三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和三年三月バラオ尋常小學校に高等科が併置せられた。同年九月には從來のタナバコ分教場及ラウラウ分教場が獨立の尋常小學校に引直された。

昭和四年四月九日勅令第五十六號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「專任十二人」ヲ「專任二十人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和四年四月サイパン島にチャツチャ尋常小學校、テニアン島にテニアン尋常小學校が設置せられた。

昭和五年四月五日勅令第七十號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任二十人」ヲ「訓導 專任三十二人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和五年四月テニアン尋常小學校に高等科が併置せられた。同年十二月にはテニアン島マルボ及カーヒーに分教場が設けられた。

昭和六年一月ラウラウ尋常小學校がアスリートに移轉せられ、アスリート尋常小學校と改稱せられた。

昭和六年四月十一日勅令第五十三號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任三十二人」ヲ「訓導 專任三十九人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

昭和七年四月一日勅令第五十號を以て左の如く南洋廳小學校官制中に改正が行はれた。

南洋廳小學校官制中左ノ通改正ス

第二條中「訓導 專任三十九人」ヲ「訓導 專任四十七人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三款 幼稚園

内地人兒童の増加に伴ひ小學校入學前の幼兒を收容保育する幼稚園の必要を見るに至り、パラオ島に於ては昭和三年四月より大谷派本願寺パラオ布教所の附帶事業として、ボナベ島に於ては昭和二年六月より、ヤツブ島に於ては昭和五年五月より、サイパン島に於ては昭和六年七月より其れ其れ在留内地人有志に依り幼稚園が經營せらるるに至つた。

幼稚園に關しては別に規程の定められたものはないのであるが、實際何れの幼稚園に於ても内地の幼稚園規程に準據して居るのである。

幼稚園は何れも其資力が不十分であるので、南洋廳に於てはバラオ、ヤツプ及サイパンの幼稚園に對しては開設の當初より、ボナベの幼稚園に對しては昭和六年度より保姆の俸給を限度として補助を爲し來つたのであつた。

第四款 實業教育

大正十五年五月二十六日南洋廳令第一號を以て左の如く南洋廳木工徒弟養成所規則が定められ、島人に對する實業教育の機關たる南洋廳木工徒弟養成所がコロール公學校に附置せられた。

南洋廳木工徒弟養成所規則左ノ通定ム

南洋廳木工徒弟養成所規則

第一章 總則

第一條 コロール公學校ニ木工徒弟養成所ヲ附置ス

第二條 木工徒弟養成所ハ建築及木工ニ従事セムトスル者ニ須要ナル知識技能ヲ授ケ併セテ徳性ヲ涵養スル所トス

第三條 木工徒弟養成所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長

講師

助手

若干名

第四條 所長ハコロール公學校長ヲ以テ之ニ充ツ支廳長ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌理ス

第五條 講師ハコロール公學校訓導中ヨリ支廳長之ヲ命ス生徒ノ教育ヲ擔任シ及所長ノ指揮ヲ承ケ事務ニ従事ス

第六條 助手ハ支廳長之ヲ命ス所長ノ命ヲ受ケ講師ノ實習指導ヲ補助ス

第七條 木工徒弟養成所ノ修業年限ハ二年トス但シ卒業後本人ノ志望ニ依リ一年以内研究生トシテ尙在學セシムルコトヲ得

研究生ハ隨意ニ學科目ヲ選擇シテ履修スルコトヲ得

第八條 生徒ノ定員ハ三十名以内トス但シ研究生ハ定員外トス

第九條 學年、學期、休業日及祝日ニ關シテハ南洋廳公學校規則第三節ノ規定ヲ準用ス

第二章 學科課程

第十條 學科課程及毎週教授時數ハ別表ニ依ル但シ別表ニ依リ難キ事情アルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ得テ支廳長之ヲ定ム

第十一條 所長ハ各學科目ニ就キ各學年ノ教授細目ヲ定ムヘシ

第十二條 所長ニ於テ教科用圖書ノ採定ヲ爲サムトスルトキハ南洋廳長官ノ認可ヲ受クヘシ其ノ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三章 入學、休學及退學

第十三條 生徒ヲ入學セシムヘキ時期ハ學年ノ始トス但シ臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第十四條 第一學年ニ入學ヲ許スヘキモノハ公學校補習科ヲ卒業シタル十六歳以下ノ男子ニシテ成績優良且ツ家庭

第三編 新領土其他に於ける教育

九五四

ノ事情二年ノ修學ニ差支ナキ者タルヘシ但シ補習科卒業ニアラサルモ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ他ノ條件ヲ具備スルモノハ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十五條 入學志望者ハ願書ニ履歷書、在學セシ學校長ノ成績證明書及所轄支廳長ノ推薦書ヲ添附シ入學一ヶ月前迄ニ支廳經由之ヲ提出スヘシ

第十六條 入學ノ許否ハ所長之ヲ決シ入學期迄ニ支廳ヲ經由シテ之ヲ本人ニ通告ス

第十七條 一旦入學シタルモノハ正當ノ事由ナクシテ退學スル事ヲ得ス

第十八條 病氣其ノ他ノ事故ニ依リ三月以上就學シ能ハスト認メタルトキハ所長ニ於テ休學ヲ命スルコトヲ得

前項ノ休學期間一年ヲ超エタル者ハ退學ト看做ス

第十九條 出席停止、懲戒及退學處分ニ關シテハ南洋廳公學校規則第三十八條、第三十九條及第四十一條ノ規定ヲ準用ス

第四章 學業成績考査

第二十條 各學年ノ成績ハ平素ノ成績及試験ノ成績ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 試験ハ學科目ニ就キ毎學期一回以上之ヲ行フ但シ學科目ノ種類ニ依リ平素ノ成績ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

第二十二條 成績考査ハ百點ヲ以テ滿點トシ各學科目五十點以上平均六十點以上ヲ以テ合格トス

特別ノ事由アルトキハ前項ノ標準ニ依ラスシテ特ニ課程ノ修了ヲ認ムルコトヲ得

第二十三條 第二學年ノ課程ヲ修了シタル者ニハ卒業證書ヲ授與ス

第二十四條 品行方正ニシテ成績優秀ナル者又ハ勤勉ニシテ他ノ模範タルヘキ者ハ之ヲ表彰スルコトアルヘシ

第五章 給與

第二十五條 寄宿舎ニ在舍スル生徒ニハ日額三十錢以内ノ食費ヲ支給ス但シ自宅ニ歸ヘリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條 在學中ノ生徒ニハ年額十五圓ノ範圍ニ於テ被服ヲ給與ス但シ代料ヲ以テ支給スルコトアルヘシ被服ハ一回若クハ數回ニ之ヲ給與シ半途退學者ニハ返納セシムルコトアルヘシ

第二十七條 研究生ニ對シテハ食費及被服ノ給與ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十八條 學習ニ必要ナル工具、材料及學用品ハ之ヲ貸與又ハ給與ス

附則

本令ハ大正十五年五月十日ヨリ之ヲ施行ス

別表

學科	學年	每週教 授時數	第一學年	每週教 授時數	第二學年
修身	一	一	道德ノ要旨	一	道德ノ要旨
國語	五	五	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	五	日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方
算術	四	四	整數、小數、諸等數 (珠算 加減)	四	分數、步合算、比例 (珠算 加減乘除)
圖畫	二	二	簡易ナル描寫、用器畫	二	用器畫、幾圖

體操	一	教練、體操、遊戲	一	教練、體操、遊戲
	五	建築	五	建築
建築	(一)	建築材料	(一)	建築材料
		構造ノ大要		構造ノ大要
工	(二)	工具、工作法	(二)	工作法、著色、設計
		實習		製圖及實習
計	三八	實習	三八	製圖及實習
	三六		三六	

附 實習時間ハ毎日一時間以内所長ニ於テ延長スルコトヲ得

第五款 學校衛生

大正十五年八月三日左の如く支廳、小學校、公學校に對する南洋廳訓令第二十一號を以て學校醫設置並職務規程、第二十二號を以て兒童身體檢査規程が定められた。

○南洋廳訓令第二十一號

學校醫設置並職務規程左ノ通定ム

學校醫設置並職務規程

第一條 南洋廳小學校及公學校ニ學校醫ヲ置ク

第二條 學校醫ハ南洋廳醫院醫長、醫官又ハ醫員中ヨリ南洋廳長官之ヲ命ス

第三條 學校醫ハ少クトモ毎月一回(離島其ノ他遠隔ノ地ハ適宜)教授時間内ニ於テ其ノ擔當學校ニ到リ左ノ事項ヲ

調査スヘシ但シ必要ニ應シ調査事項ノ取捨ヲ行フコトヲ得

一校地、建物並設備ノ衛生ニ關スル事項

二校具ノ衛生ニ關スル事項

三教授衛生ニ關スル事項

四運動ニ關スル事項

五職員、兒童ノ健康狀態

六病者、虛弱者、精神薄弱者等ノ監督養護ニ關スル事項

七清潔ニ關スル事項

八飲料水並飲食物ニ關スル事項

九其ノ他衛生上必要ナル事項

臨時必要アル場合ニ於テ學校醫ハ支廳長又ハ學校長ノ請求ニ依リ特ニ前項各號ノ全部又ハ一部ニ就キ調査スヘシ

第四條 學校醫ハ兒童中病者、虛弱者、精神薄弱者ヲ發見シ若ハ學校長其ノ他ノ職員ヨリ之ニ關スル通知アリタル

トキハ其ノ狀況ニ依リ一科目若ハ數科目ノ授業免除、休學、退學又ハ治療、保護、矯正等ヲ要スヘキコトヲ學校

長ニ申告スヘシ

前項ノ異常アル兒童中休學、退學等ヲ要セサル者ニ對シテハ學校醫ハ繼續的ニ之ヲ監察スヘシ

第五條 學校醫ハ學校職員中學校衛生上注意ヲ要スル者ヲ發見シタルトキハ之ニ關シ必要ナル事項ヲ學校長又ハ支應長ニ申告スヘシ

第六條 學校醫ハ兒童身體検査規程ニ依リ兒童ノ身體検査ヲ爲スヘシ

第七條 學校醫ハ學校附近又ハ學校内ニ傳染病發生シタルトキハ必要ナル豫防及消毒ノ方法ヲ講シ尙其ノ狀況ニ依リ學校ノ全部又ハ一部ノ閉鎖ヲ必要ト認ムルトキハ之ヲ學校長ニ申告スヘシ

通學兒童ノ住居地又ハ其ノ附近ニ傳染病發生シタル場合ニ於テ其ノ通學兒童ノ昇校ヲ禁止スル必要ヲ認ムルトキハ之ヲ學校長ニ申告スヘシ

第八條 學校醫ハ第四條、第五條及第七條ニ掲ケタル場合ノ外學校衛生上必要ト認メタル事項ニ就キ支應長又ハ學校長ニ申告スヘシ

第九條 學校醫ハ學校衛生ニ關シ學校長ノ諮問ニ應シテ意見ヲ述フヘシ

第十條 學校醫ハ學校長ノ請求ニ應シ兒童又ハ其ノ保護者等ニ對シテ衛生ニ關スル講話ヲ爲スヘシ

第十一條 學校醫ハ其ノ調査シタル事項、執務ノ狀況若ハ申告セル事項ニ就キ其ノ大要ヲ學校醫執務日誌ニ記入シ其ノ都度學校長ニ提出スヘシ

第十二條 學校醫ハ本令ニ掲グルモノ其ノ外南洋廳長官ノ命ヲ承ケ學校衛生ニ關スル職務ニ従事スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○南洋廳訓令第二十二號

兒童身體検査規程左ノ通定ム

兒童身體検査規程

第一條 學校長ハ毎年四月ニ於テ兒童ノ身體検査ヲ施行スヘシ但シ止ムヲ得サル場合ハ五月以後ニ於テ之ヲ施行スルコトヲ得

監督官廳又ハ學校長ニ於テ必要ト認ムルトキ又ハ學校醫ニ於テ必要ト認メ學校長ノ同意ヲ得タルトキハ身體検査ノ全部又ハ一部ヲ臨時施行スルコトヲ得

第二條 身體検査ハ學校醫ヲシテ之ヲ行ハシムヘシ

學校醫カ身體検査ヲ行ヒ難キ事情アルトキハ支應長ハ臨時ニ検査醫ヲ囑託シテ之ヲ行ハシムルコトヲ得

學校長ハ學校職員又ハ他ノ適當ナルモノヲシテ身體検査ノ一部ヲ助ケシムルコトヲ得

第三條 學校醫又ハ臨時検査醫ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ難キ場合ニ於テハ學校長ハ其ノ職員ヲシテ兒童ノ發育(身長、體重、胸圍、概評)ニ就キ身體検査ヲ行ハシムヘシ

第四條 身體検査ハ左ノ項目ニ就キ施行スヘシ

一 發育(身長、體重、胸圍、概評)

二 榮養

三 脊柱

四 視力及屈折狀態

五色視

- 六眼疾
- 七聽力
- 八耳疾
- 九齒牙
- 十其ノ他ノ疾病及異常
- 十一監察ノ要否

前項目ノ外必要ト認メタル事項ハ特ニ検査ヲ行フコトヲ得

色神検査ハ在學中一回行ヒタルトキハ其ノ後之ヲ省略スルコトヲ得

尋常小學校第四學年及公學校本科第二學年以下ノ兒童ニ在リテハ視力及屈折狀態、色神並聽力ノ検査ヲ省略スルコトヲ得

第五條 身體検査ハ左ノ各號ニ準據シテ施行スヘシ

- 一 検査ノ表記ニハ度ハ米、衡ハ疋ヲ以テ單位トシ四捨五入法ヲ用ヒテ度ハ厘、衡ハ瓦ニ止ムヘシ
- 二 身長ヲ測定スルニハ足袋、靴等ヲ脱セシメ兩踵ヲ密接シテ直立シ兩上肢ヲ鉛直ニ垂レ頭部ヲ正位ニ保タシムヘシ又女子ニシテ髻アル者ハ小桿ヲ髻下ニ水平ニ挿入シテ測定スヘシ
- 三 體重ハ著衣ノ儘測定シタルトキハ其ノ著衣ノ重量ヲ全重量ヨリ除去スヘシ
- 四 胸圍ハ起立ノ姿勢ニ於テ兩上肢ヲ自然ニ垂レシメ乳頭ノ水平線ニ沿ヒ普通呼氣ノ終レル時ヲ測定スヘシ
乳房ノ下垂セル女子ニ在リテハ乳線上ニ四肋間ノ水平線ニ於テ測定スルモノトス

五 發育ノ概評ハ小學校ニ在リテハ第六條各號ノ標準ニ據リ公學校ニ在リテハ見込ニ據リ甲、乙、丙ノ三分ツモノトス

六 榮養ハ甲、乙、丙ニ分チ其ノ佳良ナルモノヲ甲トシ不良ナルヲ丙トシ其中間ナルヲ乙トス

七 脊柱ハ正、左彎、右彎、前彎、後彎ヲ區別シ彎ニ就テハ凡テ其ノ凸側ニ依リテ前後左右ノ方向ヲ表示スルモノトス其ノ程度ハ之ヲ強弱二種ニ區別シ自己ノ意思ニ依リ容易ニ矯正シ得ルモノヲ弱トシ然ラサルモノヲ強トス

八 視力ハ萬國式試視力表ニ就キ兩眼ヲ各別ニ検査シ裸眼視力ヲ記入スヘシ

裸視眼力一、〇以上ナルヲ正視眼トス
屈折機ノ異常アルモノハ其ノ種別ヲ記入スヘシ

弱視、失明等モ兩眼ニツキ各別ニ記入スヘシ

九 色神ハ其ノ異常アルモノニ就キ色盲及色弱ヲ區別スヘシ

十 眼疾ハ特ニトラホームニ注意スヘシ

十一 聽力ハ其ノ障碍ノ有無ヲ検査スヘシ

十二 耳疾ハ特ニ中耳炎ニ注意スヘシ

十三 齒牙ハ齲齒ニ就キ検査スヘシ

十四 其ノ他ノ疾病及異常ハ検査ノ際發見シタルモノヲ記入スヘシ殊ニ結核性疾患、腺病、肋膜炎、心臟疾患及機能障碍、貧血、脚氣、傳染性皮膚病、下腿潰瘍、フランベジア、腺樣增殖症及扁桃腺肥大、ヘルニヤ、神

經衰弱、精神障礙ニ注意スヘシ

十五 監察ノ要否ハ検査ノ結果身心ノ健康状態不良ニシテ學校衛生上特ニ繼續的ニ監察ヲ要スト認ムル者ヲ「要」トシ記入スルモノトス

第六條 小學校兒童ノ發育概評ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ定ムヘシ

一 七年ヨリ十八年マテノ男子、七年ヨリ十六年マテノ女子ニ在リテハ被檢者ノ身長、體重及身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商ノ三者カ何レモ別表發育概評決定標準表ニ照シテ當該年齢ヨリ一年年長ノモノノ標準以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ一年年少ノモノノ標準以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

二 十九年以上ノ男子ニ在リテハ身長一米六十糎、體重五十三疋六百三十瓦、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ三・三三以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一米五十七糎、體重四十八疋七百五十瓦、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ三・〇五以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

十七年以上ノ女子ニ在リテハ身長一米四十九糎、體重四十六疋九百瓦、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ三・一・四八以上ナルヲ甲トシ之ニ該當セスシテ身長一米四十四糎、體重三十九疋三百八十瓦、身長ヲ以テ體重ヲ除シタル商カ二七・三五以上ナルヲ乙トシ甲乙何レニモ該當セサルヲ丙トス

第七條 第一條第一號ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ其ノ結果ヲ第一號様式身體検査票ニ記入シ本人同一學校ニ在學中連年之ヲ繼續使用スヘシ但シ程度ヲ異ニスル學科部類ヲ有スル學校ニ在リテハ其ノ學科部類毎ニ別票ヲ用フルモノトス

第一條第二項ノ臨時身體検査ノ際必要ト認ムル事項ヲ發見シタルトキハ之ヲ身體検査票ノ裏面ニ記入スルモノトス

ス繼續的監察ノ場合亦同シ

他校ヨリ轉入シタル者アルトキハ學校長ハ前ノ學校ヨリ其ノ身體検査票ノ交付ヲ受ケ使用スヘシ

身體検査票ハ學校長ニ於テ保管スヘシ

第八條 身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ其ノ結果ヲ本人若ハ其ノ保護者ニ示スヘシ

授業免除、休學、退學又ハ治療、保護、矯正等ヲ要スヘキモノアルトキハ本人若ハ其ノ保護者ニ對シテ特ニ注意ヲ與ヘ其ノ他必要ナル處置ヲ取ルヘシ

第九條 第一條第一項ノ身體検査ヲ施行シタルトキハ學校長ハ第二號様式身體検査統計表ヲ調製シ其ノ年六月限り

支廳長ニ報告スヘシ

支廳長前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ之ヲ取纏メ別ニ其ノ管内ニ於ケル小學校及公學校別統計表(様式ハ第二號様式ニ據ル)ヲ調製添附シ其ノ年七月限り南洋廳長官ニ報告スヘシ

第十條 特別ノ事情アル場合ハ南洋廳長官ノ認可ヲ受ケ本令ノ身體検査ヲ行ハサルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

(別表及様式略ス)

第六款 學校等職員關係

南洋廳公學校及小學校の職員の職制待遇等のことは公學校及小學校のことを説く際に述べたから此處には之を省略し、

唯等級俸給に關することは叙述の便宜上纏めて此處に之を述べることにする。

尙ほ南洋廳公學校及小學校の職員たる文官は本俸の外に在勤加俸を給せられ、又恩給の關係に於ける加算年の特典を受けるのであるから此等特殊の關係に就ては此處に之を述べる必要がある。

昭和六年五月勅令第百號を以て判任官俸給令中に改正が行はれた。これは第二次若槻内閣の時に行はれた一般官吏減俸に關するものである。右勅令第百號の正文は内地に於ける學校等職員關係中官立學校等職員のことを説、際之を掲げたから、此處には之を省略し、唯舊令と新令とに依る南洋廳の學校職員の俸給の比較のみを左に掲げる。

判任官俸給表		昭和六年五月二十七日勅令第一〇〇號 改正 昭和六年六月一日施行	
級	俸	従前月額	改正月額
一級	俸	百六十五圓	百四十五圓
二級	俸	百三十五圓	百二十五圓
三級	俸	百十五圓	百十圓
四級	俸	百圓	百十圓
五級	俸	八十圓	八十圓
六級	俸	七十圓	七十圓
七級	俸	六十圓	六十圓
八級	俸	五十圓	五十圓

九級	俸	五十圓	五十圓
十級	俸	四十圓	四十圓
十一級	俸	三十圓	三十圓

尙ほ本令の附則中には左の如き規定がある。

本令施行ノ際現ニ左表上欄ノ俸給ヲ受クル者ハ各其ノ相當下欄ノ俸給ヲ受ク

従前ノ俸給(月額)	改正俸給(月額)
二百圓以下ニシテ百六十圓ヲ超 ユルモノ	現ニ受クル額ト百六十圓トノ差額ノ十分ノ九ニ百四十八圓ヲ加ヘタル額但シ百八十圓ヲ超ユルコトヲ得ズ
百六十圓	百四十八圓
百三十五圓	百二十七圓
百十五圓	百十圓
百圓	百十圓
五十圓	五十圓

前項ノ規定ニ依リ計算スル俸給金額圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

従前ノ規定ニ依ル五級俸以上ノ各級ニ於テ經過シタル在職年數ハ之ヲ改正級ノ五級俸以上各級ニ於ケル在職年數ト看做ス

従前ノ規定ニ依ル五級俸以上ヲ受クル者第一項ノ規定ニ依リ改正級俸ニ相當セザル俸給ヲ受クルトキハ之ヲ従前ノ級俸ト同等ノ改正級俸ヲ受クルモノト看做ス

次に文官たる南洋廳公學校及南洋廳小學校職員が本俸の外に在勤加俸を受けることに關しては、

明治四十三年三月二十八日勅令第三百三十七號を以て左の如く臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令が定められた。

臺灣滿韓及樺太在勤文官加俸令

第一條 臺灣滿韓及樺太在勤ノ日本人タル文官ニハ本令ニ依リ加俸ヲ給ス但シ臺灣島人ハ此ノ限ニ在ラス
第二條 統監、臺灣總督、關東都督及樺太廳長官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五トシ其ノ他ノ高等官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ五以内、判任官ハ十分ノ八以内トシ其ノ額ハ本廳長官之ヲ定ム但シ六級俸以下ノ判任官ノ加俸ハ四十圓迄ヲ給スルコトヲ得

第三條 加俸ノ支給ニ付テハ本俸ニ關スル規定ヲ準用ス

第四條 本令ハ在外公館職員及陸海軍軍屬ニハ之ヲ適用セス

附則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

臺灣總督府職員加俸支給規則、明治三十七年勅令第三十五號、滿韓在勤文官加俸令及明治四十年勅令第三十七號ハ之ヲ廢止ス

本令施行ノ際別ニ加俸ニ關スル辭令書ヲ交付セラレサル者ハ從前ノ額ヲ受クルモノトス但シ統監、臺灣總督、關東都督及樺太廳長官ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

此勅令は其後朝鮮、臺灣、關東州、樺太等の關係の爲に幾度も改正せられ、勅令の名稱も變更せられた。

大正十一年四月八日勅令第百八十八號を以て左の如く朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令中に改正が行はれた。

「朝鮮臺灣滿洲及樺太在勤文官加俸令」ヲ「朝鮮臺灣滿洲樺太及南洋群島在勤文官加俸令」ニ改ム

第一條中「及樺太」ヲ「樺太及南洋群島」ニ改ム

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

南洋廳長官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ九トシ其ノ他ノ南洋廳高等官ノ加俸ハ本俸ノ十分ノ十二以内、南洋廳判任官ハ十分ノ十五以内トシ其ノ額ハ本廳長官之ヲ定ム但シ七級俸以下ノ判任官ノ加俸ハ月額百圓迄ヲ給スルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月分ヨリ之ヲ適用ス

此の如くにして南洋群島在勤の文官も亦在勤加俸を受くることとなつたのである。

次に恩給加算年に關しては、

大正十二年四月十四日法律第四十八號改正恩給法には其第九十一條に（抄）

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州（關東廳及其ノ所屬官署職員ニ付テハ南滿洲鐵道附屬地ヲ含ム）、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

前項ノ引續キ在勤スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ六月、警察監獄職員ニ在リテハ二年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ三年トス

とあつて、南洋廳公學校及小學校の職員は南洋群島に引續き三箇年以上在勤したる場合には當分の内恩給法の在勤年数の計算上一箇月に就き半箇月を加算せらるるのである。

第七款 教育行政機關

第一項 中央教育行政機關

大正十一年三月三十一日勅令第七七號を以て南洋廳官制が定められ、内閣總理大臣の指揮監督を受け、南洋群島に於ける行政事務を統轄する行政官廳として南洋廳長官が置かれ、長官の下に内務、財務、拓殖の三部があり、教育行政事務は内務部に於て掌理せられたことは前に總説に於て述べた所であるが、同日又勅令第百十五號を以て左の如く高等官等俸給令中に改正が行はれた。

高等官官等俸給 中左ノ通改正ス

第八條中「樺太廳長官」ノ次ニ「南洋廳長官」ヲ加フ

第十四條中「樺太廳中學校長」ノ次ニ

「南洋廳各部長
南洋廳判事
南洋廳檢事
南洋廳監院醫長
南洋廳通信技師」
ヲ加フ

第十五條中「樺太廳支廳長」ノ次ニ
「南洋廳事務官
南洋廳醫官
南洋廳藥劑官」
ヲ加フ

別表第一表中樺太廳ノ部ノ次ニ左ノ如ク加フ

南洋廳	長官	同上							
-----	----	----	--	--	--	--	--	--	--

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月一日南洋廳訓令第九號を以て左の如く南洋廳事務分掌規程が定められた。(抄)

南洋廳事務分掌規程左ノ通定ム

南洋廳事務分掌規程

第二條 内務部ニ左ノ二課ヲ置ク

地方課

警務課

第三條 地方課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一 地方行政ニ關スル事項

二 教育ニ關スル事項

第六章 南洋群島の教育

三 宗教ニ關スル事項

四 兵事ニ關スル事項

五 賑恤、救済及慈善ニ關スル事項

六 土人ニ關スル事項

七 舊慣調査ニ關スル事項

八 氣象ニ關スル事項

九 航路、船舶及航路標識ニ關スル事項

第十三條 各課ニ課長ヲ置ク

課長ハ事務官、警視、技師又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス

第十四條 調査其ノ他特殊ノ事務ヲ處理スル爲メ必要アルトキハ臨時本令ニ拘ラス事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十三年十二月二十五日勅令第四百五十三號を以て左の如く南洋廳官制中に改正が行はれた。(抄)

南洋廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「部長 三人 奏任」ヲ「書記官 專任一人 奏任」ニ、「事務官 專任八人」ヲ「事務官 專任五人」ニ、

「技師 專任四人」ヲ「技師 專任二人」ニ、「屬 專任五十六人」ヲ「屬 專任四十五人」ニ、「警部 專任八人」

ヲ「警部補」專任十一人」ニ、「技手 專任十六人」ヲ「技手 專任十二人」ニ改メ「警部補 專任十人 判任」ヲ削ル

第十條 南洋廳ノ事務分掌ハ内閣總理大臣ノ認可ヲ經テ長官之ヲ定ム

第十三條 書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ廳務ヲ掌理ス

第十五條中「事務官」ヲ「事務官、屬又ハ警部」ニ改ム

第二十條中「屬ハ」ノ下ニ「支廳長タル者ヲ除クノ外」ヲ加フ

第二十一條中「警部ハ」ノ下ニ「支廳長タル者ヲ除クノ外」ヲ加フ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

右の改正に依り三部制が廢止せられ、其他人員の整理が行はれたのであつた。

同日又南洋廳訓令第五十四號を以て左の如く南洋廳事務分掌規程が定められた。之に依て南洋廳に長官官房の外庶務、財務、警務、拓殖、通信の五課が置かれ、教育行政事務は庶務課に於て掌理せらるることとなつた。(抄)

南洋廳事務分掌規程左ノ通定ム

南洋廳事務分掌規程

第一條 南洋廳ニ長官官房及左ノ五課ヲ置ク

庶務課

第三編 新領土其他に於ける教育

財務課

警務課

拓殖課

通信課

第三條 庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 地方行政ニ關スル事項
- 二 教育、宗教、兵事ニ關スル事項
- 三 賑恤、救済及慈善ニ關スル事項
- 四 土人並舊慣調査ニ關スル事項
- 五 統計報告ニ關スル事項
- 六 委任統治年報ニ關スル事項
- 七 外國人ニ關スル事項
- 八 民籍及戶籍ニ關スル事項
- 九 土木營繕ニ關スル事項
- 十 測量ニ關スル事項
- 十一 港灣、河川、堤防、道路、橋梁及渡船ニ關スル事項
- 十二 市區計劃ニ關スル事項

- 十三 水面埋立ニ關スル事項
- 十四 電燈・電力ノ供給ニ關スル事項
- 十五 製氷ニ關スル事項
- 十六 機具機械ノ修理及製作ニ關スル事項
- 十七 製材ニ關スル事項

第八條 長官官房及各課ニ係ヲ置クコトヲ得各係ノ事務ノ分掌ハ別ニ之ヲ定ム

第十條 各課ニ課長ヲ置ク

課長ハ書記官、事務官、警視、技師又ハ屬ヲ以テ之ニ充ツ上官ノ命ヲ承ケ各其ノ主務ヲ掌理ス

第十一條 官房及各課ノ係ニ係長ヲ置ク上官ノ命ヲ承ケ其ノ主務ヲ掌ル

第十二條 調査其ノ他特殊ノ事務ヲ處理スル爲必要アルトキハ本令ニ拘ラス臨時事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

大正十一年四月南洋廳訓令第九號南洋廳事務分掌規程ハ之ヲ廢止ス

昭和二年六月二十九日勅令第二百號を以て左の如く南洋廳官制中に改正が行はれた。

南洋廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「屬 專任四十五人」ヲ「屬 專任四十七人」ニ改ム

南洋廳書記官	至自 三七 等	至自 三七 等	至自 十二 級	四、一、 五〇〇 〇四	至自 十二 級	四、一、 〇一三 〇〇四
南洋廳事務官	至自 四八 等	至自 四八 等	至自 十一 級	三、一、 八〇〇 〇四	至自 十一 級	三、一、 四〇五 〇〇四

昭和六年六月三十日勅令第六十三號を以て左の如く南洋廳官制中に改正が行はれた。

南洋廳官制中左ノ通改正ス

第二條中「屬 專任四十八人」ヲ「屬 專任四十九人」ニ、「技手 專任十四人」ヲ「技手 專任十五人」ニ改ム

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二項 地方教育行政機關

地方教育行政機關として支廳長がある。支廳長は南洋廳官制の示すが如く南洋廳長官の指揮監督を受け管内の行政事務を施行する行政官廳であり、學校等に對しても監督權を有するのである。

大正十三年十二月二十五日支廳に對して南洋廳訓令第五十號を以て左の如く南洋廳支廳事務分掌規程が定められた。

(抄)

南洋廳支廳事務分掌規程左ノ通定ム

南洋廳支廳事務分掌規程

第一條 支廳ニ左ノ二係ヲ置ク

一 庶務係

二 警務係

第二條 庶務係ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

六 教育宗教及兵事ニ關スル事項

第四條 各係ニ係長ヲ置ク

第五條 係長ハ支廳長ノ命ヲ承ケ係ノ事務ヲ掌理ス

第六條 支廳長ニ於テ必要ト認ムルトキハ長官ノ認可ヲ經テ臨時ニ事務ノ主管ヲ變更スルコトヲ得

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

南洋群島には島民をして行政に關與せしむる爲に村吏(總村長、村長、區長の如き)の制が設けられて居るのであるが、此等の村吏は教育行政事務とは別に法規上の關係はない。

又内地人に對しては別に部落の制があり、昭和六年八月南洋廳令第七號南洋群島部落規程の定むる所に依ると、部落の名稱及區域は南洋廳長官之を定むるものとし、部落は別段の定めあるものを除く外官の監督を受け部落の公共事務を處理するものであつて、其代表者として總代一名、副總代一名を置くのであるが、此れ亦教育行政事務とは別に法規上の關係はない。

明治以降 教育制度發達史 第十二卷終

昭和十四年八月三十日 印刷
昭和十四年九月三日 發行

明治以降教育制度發達史 第十二卷

文部省 内

教育史編纂會編修

右代表者 關屋龍吉

發行兼印刷者 草村松雄

東京市赤坂區田町七丁目三番地

發行所 龍吟社

著作權所有



頒布所

東京市芝區芝公園第十二號地ノ一
電話芝二三五六番・振替東京七四二〇〇番

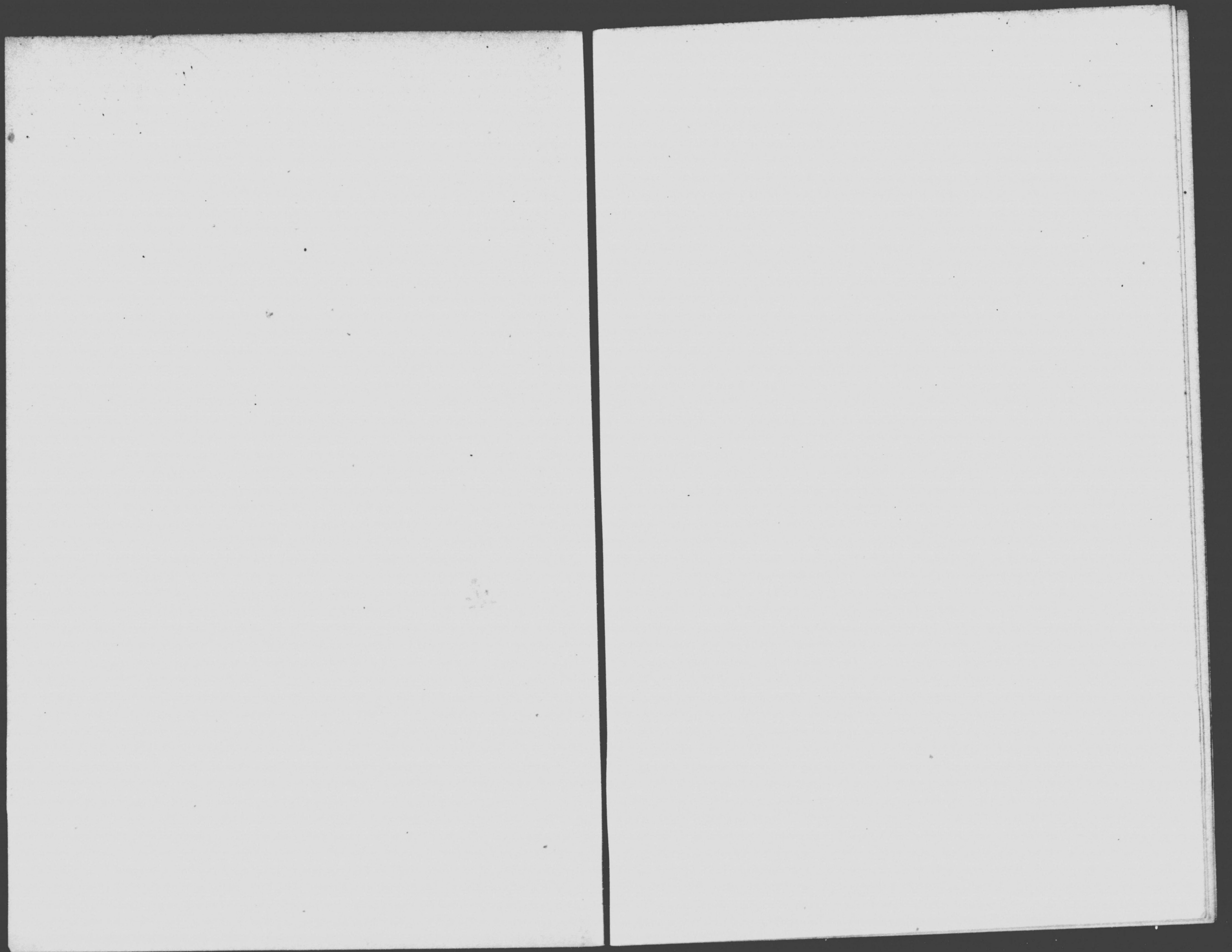
財團法人社會教育會

頒布所

東京市赤坂區田町七丁目三番地
電話赤坂三四一番・振替東京七〇〇〇番

龍吟社

〔東京市品川區大崎三ノ二九 中屋三間印刷株式會社〕



2564
143

